

神の王国の福音

それが解決策です！

神の王国が証しとして世界に宣べ伝えられるまでは終わりは来ないといエスが言ったことを、あなたはご存知ですか。



「狼も子羊と共に住む。...彼らはわたしの聖なる山のどこにおいても、害を及ぼすことも、滅ぼすこともしない。水が海を覆うように、地は主を知る知識で満たされるからである。」(イザヤ書 11:6,9)

による

ボブ・ティール博士

神の王国の福音

それが解決策です！

ボブ・ティール博士著

著作権 ©2016/2017/2018/2019/2022/2025 ナザレンブックス。第2版。
この冊子は続くChurch of God and Successors、個人法人。1036 W.
Grand Avenue, Grover Beach, California, 93433, U.S.A. ISBN:
978-1-940482-09-5。

なぜ人類は問題を解決できないのでしょうか？

聖書によれば、イエスが最初に説教したことと最後に説教したことは、
神の王国の福音に関するものだったことをご存知ですか。

使徒たちと彼らに最初に従った人々が神の王国を重視していたことを
ご存知ですか。

神の王国とはイエス様のことでしょうか？神の王国は、イエス様が今私
たちの中に生きておられることでしょうか？神の王国は、将来現実に現
れる王国のようなものでしょうか？あなたは聖書の教えを信じますか？

王国とは何でしょうか？神の王国とは何でしょうか？聖書は何を教え
ているのでしょうか？初期のキリスト教会は何を教えたのでしょうか？

神の王国が証しとして世界に宣べ伝えられるまで、終わりは来ないこと
をご存知ですか。

表紙の写真は、バーディン・プリンティング・アンド・グラフィックスが撮影した、オオ
カミと横たわる子羊です。裏表紙の写真は、2013年にボブ・ティール博士が撮影し
たエルサレムの神の教会の建物の一部です。

コンテンツ

1. 人類には解決策があるか？
2. イエスはどんな福音を説いたのですか？
3. 神の王国は旧約聖書の中で知られていましたか？
4. 使徒たちは王国の福音を教えましたか。
5. 新約聖書以外の資料でも神の王国について教えられています。
6. ギリシャ・ローマ教会は王国が重要であると教えているが...
7. なぜ神の王国なのか？

連絡先

注記：本書は人工知能による英語版からの翻訳です。そのため、一部の表現は原文を完全に反映していない可能性があります。原文に近い内容になっていることを願っています。英語版はwww.ccog.orgで無料でオンラインでご覧いただけます。

1.人類には解決策があるのでしょうか？

世界は多くの問題に直面している。

多くの人々が飢え、抑圧され、貧困に直面しています。多くの国々が深刻な債務を抱えています。胎児を含む子どもたちが虐待に直面しています。薬剤耐性疾患は多くの医師を不安にさせています。主要工業都市の大気汚染は健康にとって望ましくないほど深刻です。多くの政治家が戦争を脅かし、テロ攻撃は後を絶ちません。

世界の指導者たちは人類が直面している問題を解決できるだろうか？

多くの人がそう思います。

新しい普遍的課題

2015年9月25日、バチカンのフランシスコ教皇の基調演説の後、国連（UN）加盟193カ国は、いわゆる「持続可能な開発目標」の「17の目標」を実施することを投票で決定した。新しい普遍的課題国連の17の目標は次のとおりです。

目標1.あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる

目標2. 飢餓を終わらせ、食料安全保障と栄養改善を達成し、持続可能な農業を促進する

目標3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する

目標4. 包摂的かつ公平な質の高い教育を確保し、すべての人々に生涯学習の機会を促進する

目標5. ジェンダー平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワメントを図る

目標6. すべての人々の水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する

目標7. すべての人々に、安価で信頼できる、持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する

目標8. 持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、完全かつ生産的な雇用、そしてすべての人々のディーセント・ワーク（働きたいのある人間らしい仕事）を促進する

目標9. 強靱なインフラを構築し、包摂的かつ持続可能な産業化を促進し、イノベーションを促進する

目標10. 国内および国家間の不平等を是正する

目標11. 包摂的、安全、強靱かつ持続可能な都市と人間居住地を実現する

目標12. 持続可能な消費と生産のパターンを確保する

目標13. 気候変動とその影響に対処するための緊急対策を講じる

目標14. 持続可能な開発のために海洋および海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する

目標15. 陸上生態系の保護、回復、持続可能な利用の促進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止・逆転、生物多様性の損失の阻止を行う

目標16. 持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する

目標17. 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

このアジェンダは2030年までに完全に実施されることになっており、持続可能な開発のための2030アジェンダ人類が直面する病を、規制、教育、そして国際協力と宗教間協力を通して解決することを目指しています。その目的の多くは善ですが、方法と目標の中には邪悪なものも含まれています(創世記3章5節参照)。この課題は、故フランシスコ教皇のあなたに賛美あれ回勅。教皇レオ14世もこの2030アジェンダを支持する声明を発表しました。

「新しい普遍的アジェンダ」は「カトリック」という言葉が「普遍的」を意味することから「新しいカトリックアジェンダ」とも呼ばれる。フランシスコ教皇は、この採択を
この議題の「重要な希望の兆し」

国連の合意を受けて、2015年12月にパリで会議が開催された(正式名称は21st国連気候変動枠組条約締約国会議フランシスコ教皇もこの国際合意を称賛し、各国に対し「今後とも慎重に、そしてますます強める連帯感をもって進んでいく」よう助言した。

世界のほぼすべての国が、具体的な環境目標と財政的コミットメントを盛り込んだパリ協定に同意しました。(当時の米国大統領バラク・オバマは2016年に米国をこれにコミットさせる文書に署名しましたが、2017年にドナルド・トランプ米国大統領は、米国はパリ協定の合意を受け入れないと表明しました。これは国際的な非難を招き、米国をヨーロッパや世界の他の多くの地域から孤立させる一因となりました。)フランシスコ教皇は後に、人類が気候変動に関する彼の提案を実行しなければ「滅びる」と述べました。

汚染された空気を吸い、飢え、貧困、絶滅の危機に瀕することなどを望む人は誰もいませんが、国連の2030アジェンダやパリ協定の目標を達成しようとする人間の試みは、人類が直面している問題を解決するのでしょうか？

国連の実績

国際連合は、第二次世界大戦後の1945年10月24日に、このような紛争の再発を防ぎ、世界平和を促進するために設立されました。設立当初の加盟国は51カ国でしたが、現在は193カ国にまで増加しています。

国連が設立されて以来、世界中で何百、いや何千もの紛争が起きてきましたが、第三次世界大戦と呼べるような紛争はまだ起きていません。

国連が推進していると主張するような国際協力は、教皇レオ14世やその他多くの宗教指導者が推進しようとしている異宗教間およびエキュメニカルな課題と相まって、平和と繁栄をもたらすだろうと信じる人もいます。

しかし、国連のこれまでの実績は芳しくありません。国連設立以来、数々の武力紛争が発生し、数百万人もの人々が飢餓、難民、そして極度の貧困に苦しんでいます。

数十年前、国連はミレニアム開発目標8つの「開発目標」を掲げていましたが、国連自身も認めるほどの成果は得られませんでした。そこで2015年に、いわゆる「17の持続可能な開発目標」が採択されました。楽観的な意見もあれば、ユートピア的な空想だと考える人もいます。

ユートピアに関して言えば、2016年5月6日、当時のフランシスコ教皇は、ヨーロッパ大陸が人間的なユートピアを実現できるよう、教会の力でその実現を手助けしたいと夢見ていると述べました。しかし、その教皇の夢は悪夢と化します（黙示録18章参照）。

ある程度の協力と成功はあるかもしれないが...

メリアム・ウェブスター辞典ユートピアとは「政府、法律、社会状況が完璧な架空の場所」であると聖書は述べています。聖書は、人類は自力で問題を解決することはできないと教えています。

²³主よ、わたしは知っています。人の道は人自身の中にはなく、人は自分の歩みを自分で決めて歩むものではありません。（エレミヤ書 10:23、特に断りのない限りNKJV訳）

聖書は国際協力は失敗すると教えています。

¹⁶破壊と悲慘が彼らの道にある。¹⁷そして彼らは平和の道を知らなかった。¹⁸彼らの目には神への畏れがありません。（ローマ人への手紙 3:16-18）

しかし、多くの人間がユートピア社会の実現を目指して努力し、時には宗教に介入しようとさえしています。しかし、唯一真の神の道に従おうとする人はほとんどいません。国連やバチカンの目標のどれも達成されないというわけではありません。いくつかの目標（そしてその多くは良い目標です）と、いくつかの挫折は起こるでしょう。

実際、おそらく大規模な紛争の後に、ある種の国際和平協定が合意され、承認されるでしょう（ダニエル書 9:27）。そうすると、人類はより平和でユートピア的な社会を実現するだろうと、多くの人が誤って信じるようになるでしょう。

多くの人々は、このような国際的な「ユートピア的進歩」（エゼキエル 13:10参照）や様々なしるしや不思議（テサロニケ人への手紙二2:9-12）

に魅了されるでしょう。しかし、聖書は、指導者たちが主張するにもかかわらず(テサロニケ人への手紙一5:3、イザヤ書59:8)、そのような平和は長くは続かないと述べています(ダニエル書9:27、11:31-44)。

イエスを離れて(ヨハネ15:5、マタイ24:21-22参照)、人類がこの「今の邪悪な時代」にユートピアをもたらすことができるという考えは、偽りの福音です(ガラテヤ1:3-10)。

人類だけでは真のユートピアを実現することが全く不可能だとしたら、どんなタイプのユートピアも実現可能なのでしょうか？

はい。

神の王国はこの惑星を、そして後には永遠に、素晴らしく良いものにするでしょう。

2. イエスはどんな福音を説いたのですか？

聖書は、神の王国と呼ばれるユートピア社会が人間の政府に取って代わると教えています(ダニエル 2:44、黙示録 11:15、19:1-21)。

イエスが公の宣教を始めたとき、彼は説教から始めました。神の王国の福音マークの報告は次のとおりです。

¹⁴ヨハネが投獄された後、イエスはガリラヤに来られ、神の国の福音を宣べ伝えられました。¹⁵そしてこう言いました。「時は満ち

た。神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。」(マルコ1:14-15)

福音という言葉はギリシャ語から来ており、ユーアンゲリオン「王国」は「良い知らせ」や「良い知らせ」を意味します。新約聖書では、神の王国に関連する英語の「王国」という言葉は、NKJVで約149回、新約聖書で約151回登場します。ドゥエ・リームス聖書これはギリシャ語の「」から来ており、王国王族の統治または王国を意味します。

人間の王国にも、神の王国と同様に、王がおり(黙示録 17:14)、地理的な範囲をカバーしており(黙示録 11:15)、規則があり(イザヤ 2:3-4; 30:9)、臣民がいます(ルカ 13:29)。

マタイが記録するイエスの最初の公の教えは次のとおりです。

²³そしてイエスはガリラヤ中を巡り歩き、諸会堂で教え、御国の福音を宣べ伝えた(マタイ4:23)。

マタイはまた次のように記録しています。

³⁵それから、イエスはすべての町や村を巡り歩き、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝えた(マタイ9:35)。

新約聖書はイエスが永遠に統治することを示しています。

³³そして彼は永遠にヤコブの家を治め、その王国には終わりが無い。(ルカ1:33)

ルカは、イエスが遣わされた目的は神の王国を宣べ伝えるためであったと記録しています。イエスが教えたことに注目してください。

⁴³イエスは彼らに言いました。「わたしはほかの町々にも神の国を宣べ伝えなければなりません。わたしはそのために遣わされたのです。」(ルカ4:43)

あなたはそのような説教を聞いたことがありますか？イエスが遣わされた目的は神の王国を宣べ伝えることだったと気づいたことがありますか？

ルカはまた、イエスがした行って神の王国を宣べ伝えなさい。

¹⁰使徒たちは帰って来て、自分たちのしたことをすべてイエスに報告した。それからイエスは彼らを連れて、ベツサイダという町の寂しい所へひっそりと行かれた。¹¹しかし、群衆はそれを知ってイエスに従いました。イエスは彼らを迎えて、神の王国について語られました(ルカ9:10-11)。

イエスは、神の王国が彼に従う者たちにとって最優先事項であるべきだと教えました。

³³しかし、まず神の王国と神の義を求めなさい。(マタイ6:33)

³¹しかし、神の王国を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられるでしょう。³²恐れることはない、小さな群れよ。あなたたちに王国を与えることは、あなたたちの父の喜びである。(ルカ12:31-32)

キリスト教徒は神の国を第一に求めなければなりません。彼らは、キリストが望むように生き、神の再臨と神の国を待ち望むことによって、神の国を最優先に求めます。しかし、キリストを信仰する人のほとんどは、神の国を第一に求めているだけでなく、それが何であるかさえ知りません。また、世俗的な政治に関与することが神がキリスト教徒に期待していることだと誤って信じている人も多くいます。神の国を理解していないため、彼らは神の国を理解できません。

今、彼らがすべきように生きるか、あるいは人類がなぜこれほど欠陥を抱えているのかを理解するかだ。

神の国は小さな群れに与えられることにも注目してください(ローマ11:5 参照)。真の小さな群れの一員となるには、謙遜が必要です。

神の王国はまだ地上に確立されていない

イエスは、弟子たちがまだ王国を手に入れていないので、王国が来るように祈るべきだと教えました。

⁹天におられるわたしたちの父よ、御名があがめられますように。¹⁰ 御国が来ますように。御心が行われますように。(マタイ6:9-10)

イエスは弟子たちを遣わして神の王国を宣べ伝えさせました。

¹それからイエスは12人の弟子たちを呼び集め、彼らにすべての悪霊を制圧し、病気を治す力と権威を与えました。²イエスは彼らを神の王国を宣べ伝えるために遣わされました(ルカ9:1-2)。

イエスは、当時地上に王国が確立されていなかったため、自身の存在だけでは王国ではないと教え、それがイエスが当時自身の名において悪魔を追い出さなかった理由である。

²⁸しかし、わたしが神の霊によって悪霊を追い出しているのなら、神の国は確かにあなたたちのところに来ているのです。(マタイ12:28)

真の王国は将来にあるのです。マルコが示すように今ではありません。

⁴⁷もしあなたの目が罪を犯させるなら、えぐり出しなさい。両目が揃っていて捨てられるよりは、片目で神の国に入る方がよいのです。(マルコ9:47)

²³イエスは周りを見回して弟子たちに言いました。「富を持っている者が神の国に入るのは、なんと難しいことか。」²⁴弟子たちはイエスの言葉に驚いた。しかし、イエスは再び答えて言われた。「子たちよ、富を頼みとする者が神の国に入るのは、なんと難しいことか。」²⁵金持ちが神の国に入るよりは、らくだが針の穴を通る方がもっと易しい」(マルコ10:23-25)。

²⁵よく聞きなさい。神の国で新しいものを飲むその日までは、わたしはもはやぶどうの実から作ったものを飲むことはありません。」(マルコ14:25)

⁴³アリマタヤのヨセフは、議会の有力者であり、神の王国を待ち望んでいた人物で、勇気を出してやって来ました...(マルコ15:43)。

イエスは、王国は今やこの現世の一部ではないと教えました。

³⁶イエスは答えられました。「わたしの国はこの世のものではありません。もしわたしの国がこの世のものであったなら、わたしのしもべたちは、わたしをユダヤ人に引き渡さないように戦ったことでしょう。しかし、わたしの国はこの世のものではありません。」(ヨハネ18:36)

イエスは、自分が王として戻った後に王国が来ると教えました。

³¹「人の子が栄光のうちにすべての聖なる天使たちを従えて来るとき、彼はその栄光の王座に座ります。³²すべての国々が彼の前に集められ、羊飼いが羊と山羊を分けるように、彼は彼らをより分けられます。³³そして、羊を右に、山羊を左に置くであろう。³⁴そのとき、王は右にいる人々に言うであろう。「わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受け継ぎなさい。」(マタイ伝 25:31-34)

神の王国はここにはないので、真のユートピアはそれが確立されるまで見ることはできません。ほとんどの人は神の王国を理解していないため、神の愛に満ちた統治がどのように機能するかを理解できていないのです。

「異邦人が満ちあふれるまでは、神の王国は来ません」(ローマ11:25) —そしてそれはまだ起こっていません。

イエスは王国がどのようなものであると言いましたか？

イエスは神の王国がどのようなものであるかについて、いくつかの説明をしました。

²⁶そしてイエスは言われた、「神の国は人が地に種を蒔くようなものである。²⁷夜は眠り、昼は起き、種は芽を出し成長するのだが、彼自身はその方法を知らない。²⁸地はひとりでに作物を生み出すからである。まず芽が出て、次に穂が出、その後穂の中に実がなる。²⁹しかし、実がなると、すぐに鎌を入れます。収穫の時が来たからです。」(マルコ4:26-29)

¹⁸そこでイエスは言われた。「神の国は何に似ているか。何にたとえようか。¹⁹それは、からし種のようなものである。人がそれを取って自分の庭に蒔くと、成長して大きな木になり、空の鳥が

その枝に巣を作った。」²⁰またイエスは言われた。「神の国を何にたとえようか。²¹それはパン種のようなものです。女がそれを取って三斗の小麦粉の中に混ぜると、全体が膨らみます。」
(ルカ13:18-21)

これらのたとえ話は、神の王国は最初は非常に小さいが、やがて大きくなり、最終的には無限の宇宙にまで及ぶことを示唆しています。

ルカはまた次のように記録しています。

²⁹彼らは東から西から、北から南から来て、神の王国に座ります(ルカ13:29)。

したがって、神の王国には世界中から人々が集まります。それはイスラエルの血統を持つ人々や特定の民族に限定されるものではありません。あらゆる場所から人々がこの王国に集うのです。

ルカ17章と王国

ルカ17章20-21節は、一部の人々を困惑させます。しかし、その前に、神の国では人々が実際に食事を摂るということに注目してください。

¹⁵「神の国でパンを食べる人は幸いである。」(ルカ14:15)

人々は(将来)神の王国で食事をするので、ルカ17:21の誤訳/誤解がそうでないことを示唆しているにもかかわらず、それは今単に人々の心の中に取っておかれるものではありません。

ルカ17:20-21のモファット訳は、理解を助けるかもしれません。

²⁰さて、パリサイ人たちがイエスに、神の国はいつ来るのかと尋ねたとき、イエスは答えて言われた。「神の国は、人々の目に見える形で来るのではない。²¹『見よ、ここにある!』『見よ、あそこにある!』とも言わない。見よ、神の国はあなたがたの真ん中に立っているのだ。」(ルカ17:20-21、AFV。NASBとESVの翻訳も参照)

イエスが、改心していない、肉欲に溺れ、偽善的なパリサイ人に語っていたことに注目してください。イエスは「彼らに答え」られました。イエス

に質問したのはパリサイ人でした。彼らはイエスを認めようとしませんでした。

彼らは教会にいたのですか？いいえ！

イエスは、すぐに組織される教会についても語っておられたわけではありません。また、心や精神にある感情についても語っておられたわけではありません。

イエスはご自身の統治について語っておられたのです！パリサイ人たちは教会について尋ねていたわけではありません。彼らは新約聖書に記された教会が間もなく設立されることなど知りませんでした。彼らは、ある種の美辞麗句について尋ねていたではありません。

神の王国は教会であり、神の王国はパリサイ人の「中」にあったと考えるなら、教会はパリサイ人の中にあつたのでしょうか？もちろん違います！

このような結論は、かなり馬鹿げていると思いませんか？プロテスタント系の翻訳では、ルカ17章21節の一部を「神の国はあなたの中にあります」(NKJV/KJV)と訳していますが、ローマカトリックの翻訳でさえ新エルサレム聖書正しくは「神の王国はあなたたちの中にある」と翻訳されます。

イエスはパリサイ人の中に、まさにその中心にいた方でした。イエスは、その王国の王となるはずでした。パリサイ人は神の王国を待ち望んでいたと思っていましたが、彼らはそれを誤解していました。イエスは、それが彼らが考えていたような、ユダヤ人だけのための地域的な、あるいは限定的な王国(あるいは、現在一部の人々が信じているような教会)ではないことを説明しました。神の王国は、人々が指差したり見たりして「これがそれだ」「あそこが神の王国だ」と言えるような、人間の目に見える多くの王国の一つではないのです。

イエスご自身が、ピラトにはっきりと告げられたように、その王国の王となるためにお生まれになりました(ヨハネ18:36-37)。聖書では「王」と「王国」という言葉がしばしば互換的に使われていることを理解してください(例:ダニエル7:17-18,23)。将来の神の王国の王は、当時、パリサイ人の隣に立っていました。しかし、彼らはイエスを自分たちの王として

認めませんでした(ヨハネ19:21)。イエスが再臨される時、世はイエスを拒絶するでしょう(黙示録19:19)。

イエスはルカ17章の次の節で、神の王国が全地を支配する再臨について説明しました(モファットの翻訳):

²²イエスは弟子たちにこう言いました。「人の子の一日でも与えてもらいたいと切望する日が来るでしょう。²³人々は「ほら、ここにいる!」「ほら、あそこにいる!」と言うだろうが、出て行ったり、追いかけてたりしてはならない。²⁴人の子も、自分の日に、天の端から端までひらめく稲妻のようになるからである。²⁵しかし、まず彼は大きな苦しみに耐え、今の世代から拒絶されなければなりません。(ルカ17:22-25、モファット訳)

イエスは、マタイによる福音書24章27-31節で、全世界を支配するために再臨することを描写し、稲妻の閃光について言及しました。イエスは、再臨の際に民がイエスを見ることができないと言っているのではなく、必ず見ることになると言っているのです(使徒行伝1章11節参照)。

しかし、ほとんどの人はイエスを自分たちの王として認めず(黙示録11:15)、イエスに敵対するでしょう(黙示録19:19)。多くの人はイエスを反キリストの象徴だと考えるでしょう。イエスは、神の国がパリサイ人の中にあると言われたわけではありません。イエスは別の箇所、彼らが偽善のために神の国に入ることにはできないと告げられました(マタイ23:13-14)。また、教会が神の国になるとも言われませんでした。

神の国は、人類がいつの日か入ることができるものなのです — 義人の復活のように! しかし、アブラハムや他の族長たちでさえ、まだそこに入っていないのです(ヘブライ人への手紙 11:13-40参照)。

弟子たちは、神の王国が当時自分たちの中に存在していなかったこと、そしてルカ17:21の後に続く次の言葉が示すように、それが現れなければならないことを知っていました。

¹¹人々がこれらのことを聞くと、イエスはエルサレムに近づいておられたので、また別のたとえ話をされた。彼らは神の国はすぐに現れると思っていたからである(ルカ19:11)。

王国は明らかに未来にあった

神の国が近いかどうかはどうすれば分かるのでしょうか。その問いに答えるために、イエスは預言的な出来事を列挙し(ルカ 21:8-28)、次のように教えられました。

²⁹いちじくの木や、すべての木を見てください。³⁰すでに芽が出ているのを見ると、夏が近づいていることがわかります。³¹あなたも、これらのことが起こるのを見たら、神の国が近づいていると知りなさい(ルカ21:29-31)。

イエスは、民が預言的な出来事に目を向け、神の国がいつ来るかを知るように望んでいました。イエスは他の箇所でも、民に預言的な出来事に注目し、注意を払うようにと告げられました(ルカ21:36、マルコ 13:33-37)。イエスの言葉にもかかわらず、多くの人は預言と結びついた世界の出来事に注目することを軽視しています。

ルカ22章と23章で、イエスは再び神の王国が将来実現することを示して次のように教えました。

¹⁵「わたしは、苦しみを受ける前に、あなたたちと一緒にこの過越の食事をしたいと切に望んでいました。¹⁶あなたたちに言いますが、神の国でそれが実現するまでは、わたしはもはやそれを食べません。」¹⁷それから、杯を取り、感謝をささげてから、こう言われた。「これを取って、あなたたちの間で分けなさい。¹⁸言うておくが、神の国が来るまでは、わたしはぶどうの実を飲むことは決してないだろう。」(ルカ22:15-18)

³⁹しかし、イエスと共に十字架につけられた悪人の一人がイエスを冒涇して言った。「あなたがメシアなら、自分自身を救い、私たちも救ってください。」⁴⁰すると、その仲間が彼を叱り、彼は言った。「あなたは神をも恐れぬのか。あなたも神と共に罪に定められているではないか。⁴¹わたしたちは当然そうなのです。わたしたちはそれに値する者であり、わたしたちの行いに応じて報いを受けているのですから。しかし、この人は何も悪いことをしていません。」⁴²そして彼はイエシュアに言いました。「私の主よ、あなたの王国に來られるときには、私を思い出してください。」⁴³しかし、イエシュアは彼にこう言いました。「アーメン。あなたに告げます。あなたは今日、私と共に樂園にいるでしょう。」(ルカ23:39-43、アラム語平易な英語訳)

マルコとルカが示しているように、神の王国はイエスが殺された直後に到来したわけではありません。

⁴³アリマタヤのヨセフは、議会の有力者であり、神の王国を待ち望んでいた人物で、勇気を出してやって来ました...(マルコ 15:43)。

⁵¹イエスはユダヤ人の町アリマタヤの出身で、神の王国を待ち望んでいた人でした(ルカ23:51)。

ヨハネが記録しているように、キリスト教徒が神の王国に入るために再び生まれるのは、復活の後です(コリントの信徒への手紙一 15:50-55)。

³イエスは答えて言われた。「よくよくあなたに言うておく。人は新しく生まれなければ、神の国を見ることはできない。」⁴ニコデモはイエスに言った。「人は年を取ってから、どうして生まれることができますでしょうか。もう一度母の胎内に入って生まれることができますでしょうか。」⁵イエスは答えました。「よくよくあなたに言います。人は、水と霊とから生まれなければ、神の国に入ることはできません。(ヨハネ3:3-5)」

神の民だけが、千年王国後の究極の神の王国を見るでしょう。

さて、イエスが復活した後、再び神の王国について教えられたことをさらに理解してください。

³イエスはまた、苦しみを受けた後、多くの確実な証拠によってご自身が生きていることを示され、40日間彼らに現れて、神の王国に関する事柄を語りました(使徒行伝1:3)。

イエスが最初に説いた説教と最後の説教は、神の王国についてでした。イエスはその王国について教える使者として来られたのです。

イエスはまた、使徒ヨハネに、地上に到来する千年王国について書かせました。ヨハネに何を書かせたかに注目してください。

⁴わたしは、イエスと神の言葉の証しのために首を切られた者たちの魂を見た。彼らは獣とその像を拝まず、額や手に獣の刻印

を受けなかった。そして彼らは生き続け、キリストと共に千年の間、支配した(黙示録 20:4)。

初期のキリスト教徒は、聖書が教える通り、千年王国が地上に存在し、世界の政府に取って代わると教えました(黙示録 5:10、11:15 参照)。

神の王国がそれほど重要なのなら、なぜほとんどの人がそれについてあまり聞いたことがないのでしょうか。

イエスがそれを神秘と呼んだのもその理由の一つです。

¹¹そしてイエスは彼らに言われた、「あなたがたには神の国の奥義を知ることが許されている。しかし、外にいる人たちには、すべてがたとえで示されるのだ」(マルコ4:11)。

今日でも、真の神の王国は、神の計画の多くと同様に、ほとんどの人にとって謎です(無料のオンライン書籍もご覧ください。www.ccog.org タイトル: 神の計画の謎 神はなぜあらゆるものを創造したのか？ 神はなぜあなたを創造したのか？)。

また、イエスは、神の国の福音が証人として全世界に宣べ伝えられた後に(時代の)終わりが(すぐに)来るだろうと言われたことも考えてください。

¹⁴そして、この御国の福音は、あらゆる国民への証しとして、全世界に宣べ伝えられ、それから終わりが来ます。(マタイ 24:14)

神の王国の福音を宣べ伝えることは重要であり、成し遂げられなければならないこの終わりの時代に政治指導者が何を教えるかに関わらず、それは人類の苦悩に真の希望を与えるものであり、「良いメッセージ」です。

イエスの御言葉を考えれば、真のキリスト教会は今こそ御国の福音を宣べ伝えるべきであることは明かです。これは教会にとって最優先事項であるべきです。そして、これを適切に行うためには、複数の言語を活用する必要があります。これが続く神の教会はこれを実現するため

に努力しています。だからこそ、この小冊子は数十の言語に翻訳されているのです。

イエスは、ほとんどの人が彼のやり方を受け入れないことを教えました。

¹³「狭い門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広いからである。そして、そこから入って行く者が多い。」¹⁴命に至る門は狭く、その道は険しく、それを見出す者は少ないからです。(マタイ7:13-14)

神の王国の福音は命に導きます！

注目すべきは、キリスト教徒を自称する人のほとんどは、キリストが神の王国の福音を宣べ伝えることに重点を置いていたという考えに気づいていないようです。しかし、世俗の神学者や歴史家は、これが聖書が実際に教えていることであるとしばしば理解しているということです。

しかし、イエスご自身も弟子たちに神の国の福音を教えることを期待しておられました(ルカ9:2、60)。将来の王国は神の律法に基づくため、平和と繁栄をもたらすでしょう。そして、この時代にそれらの律法に従うことは真の平和につながります(詩篇119:165、172; エペソ2:15)。

そして、この王国の良い知らせは旧約聖書の中で知られていました。

3. 王国は旧約聖書の中で知られていましたか？

記録に残るイエスの最初で最後の説教は、神の王国の福音を宣べ伝えるものでした(マルコ1:14-15; 使徒行伝1:3)。

神の王国は、イエスの時代のユダヤ人が知っていたはずのものであり、それは彼らの聖典、現在私たちが旧約聖書と呼んでいるものに記されていました。

ダニエルは王国について教えた

預言者ダニエルはこう書いています。

⁴⁰そして第四の王国は鉄のように強くなり、鉄はすべてのものを打ち砕き、粉碎します。そして、鉄が粉碎するように、その王国もすべてを打ち砕き、粉碎します。⁴¹あなたが見たように、足とつま先は、一部は陶器の粘土、一部は鉄でできており、王国は分割されます。しかし、あなたが見たように、鉄が陶器の粘土と混ざり合ったその王国には、鉄の強さが残ります。⁴²そして、足の指が一部は鉄で一部は粘土であったように、王国は一部は強く、一部は脆弱であろう。⁴³あなたが鉄が陶土と混ざったのを見たように、それらは人間の種と混ざり合うでしょう。しかし、鉄が粘土と混ざらないのと同じように、それらは互いに付着することはありません。⁴⁴これらの王たちの時代に、天の神は決して滅びることのない一つの王国を立てられます。その王国は他の民に渡されることはありません。それはこれらのすべての王国を打ち砕き、滅ぼし、永遠に存続します。(ダニエル書 2:40-44)

¹⁸しかし、いと高き方の聖徒たちは王国を受け継ぎ、永遠にその王国を所有するであろう。』(ダニエル書 7:18)

²¹「わたしは見ていた。そして、同じ角が聖徒たちに戦いを挑み、彼らに勝利していた。²²年老いた者が来て、いと高き方の聖徒たちに有利な裁きが下され、聖徒たちが王国を所有する時が来た。(ダニエル書 7:21-22)

ダニエル書から、神の王国がこの世の王国を滅ぼし、永遠に続く時が来ることを学びます。また、聖徒たちがこの王国を受け取る役割を担うことも学びます。

ダニエルの預言の多くは、21世紀の現代に向けられたものである。st 世紀。

新約聖書のいくつかの箇所注目してください。

¹²「あなたが見た十本の角は、十人の王である。彼らはまだ国を受けていないが、獣と共に、一時の間、王としての権威を受ける。¹³彼らは心をつにして、自分たちの力と権威を獣に与えます。¹⁴彼らは小羊と戦うが、小羊は彼らに勝つ。なぜなら、小羊は万物の主、万物の王だからである。そして、小羊と共にいる者は、召された者、選ばれた者、忠実な者だからである。」
(黙示録17:12-14)

ですから、旧約聖書と新約聖書の両方に、終末の時代には 10 の部分から成る地上の王国が存在し、神がそれを滅ぼして神の王国を樹立するという概念が見られます。

イザヤは王国について教えた

神はイザヤに靈感を与え、神の王国の最初の部分、千年王国として知られる千年統治について次のように書かせました。

¹エッサイの根から杖が出て、その根から枝が生える。²主の霊が彼の上にとどまるであろう。それは知恵と理解の霊、助言と力との霊、主を知る知識と主を畏れる霊である。

³彼は主を畏れることを喜びとし、その目で見て裁かず、その耳で聞いて判断しない。⁴しかし、彼は正義をもって貧しい者を裁き、公平をもって裁きを下すであろう

主は地の柔和な者たちのために、その口の杖で地を打ち、その唇の息で悪者を殺すであろう。⁵正義はその腰の帯となり、誠実はその腰の帯となる。

⁶「狼は子羊と共に住み、豹は子やぎと共に伏し、子牛と若い獅子と肥えた家畜は共にいて、幼子がこれを導く。」⁷牛と熊は草をはみ、その子らは共に伏し、獅子も牛のようにわらを食べる。⁸乳飲み子はコブラの穴で遊び、乳離れした子は毒蛇の穴に手を入れる。⁹彼らはわたしの聖なる山のどこにも害を与えず、破壊もしない。水が海を覆っているように、地は主を知る知識で満たされるからだ。

¹⁰「その日には、エッサイの根が出て、民の旗印となる。異邦人は彼を求め、彼の安息の地は栄光に満ちる。」(イザヤ書 11:1-10)

私がこれを神の王国の第一段階、あるいは第一段階と呼んだのは、これが物理的な時代(聖都、新エルサレムが天から下る時、黙示録21章より前)であり、千年続くからです。イザヤはこの段階の物理的な側面を次のように確証しています。

¹¹その日には、主は再び手を伸ばし、その民の残りの者を、アッシリアとエジプト、パテロスとクシュ、エラムとシナル、ハマテと海の島々から救い出される。

¹²彼は諸国民のために旗を立て、イスラエルの追いやられた者を集め、ユダの散らされた者を地の四隅から集める。¹³エフライムのねたみは去り、ユダの敵は断ち切られる。エフライムはユダをねたまず、ユダもエフライムを悩ませない。¹⁴しかし、彼らはペリシテ人の肩に乗って西に攻め下り、東の人々を略奪し、エドムとモアブに手を下す。そして、アンモン人は彼らに従う。¹⁵主はエジプトの海の舌を完全に滅ぼし、その大風をもってその拳を川の上に振り上げ、それを七つの流れに打ちつけ、人々に乾いた足で渡らせるであろう。¹⁶アッシリアから残された御民の残りの者のために、大路が開かれる。イスラエルがエジプトの地から上って来た時のように。(イザヤ書 11:11-16)

イザヤはまた靈感を受けて次のように書きました。

²末の日に、主の家の山は山々の頂として堅く立ち、すべての丘よりも高くそびえ立ち、すべての国々はそこに流れ込むであろう。³多くの民が来て言う。「さあ、主の山に登り、ヤコブの神

の家に行こう。主は私たちにその道を教えられる。私たちはその道に歩もう。」シオンから律法が発せられるからである、そしてエルサレムからの主の言葉。⁴主は諸国民の間を裁き、多くの民を戒められる。彼らはその剣を打ち直して鋤とし、その槍を打ち直して鎌とする。国は国に対して剣を上げず、もはや戦争を学ばないだろう。...¹¹その日には、人の高慢は低くされ、人の傲慢は屈し、主だけが高められる。(イザヤ書 2:2-4,11)

したがって、地上はユートピア的な平和の時代となるでしょう。最終的には、イエスが統治する永遠の時代となるでしょう。様々な聖典(詩篇 90:4、92:1、イザヤ2:11、ホセア6:2)に基づき、ユダヤ教タルムードはこれが1000年間続くと教えています(バビロニア・タルムード: サンヘドリン巻97a)。

イザヤは靈感を受けて次のようにも書きました。

⁶わたしたちにひとりの幼子が生まれ、わたしたちにひとりの息子が与えられた。主権はその肩に置かれる。そして、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。⁷主の統治と平和は限りなく増し、ダビデの王座とその王国は、正義と公正によって秩序と確立を保たれる。その時より永遠に。万軍の主の熱意がこれを成し遂げる。(イザヤ書 9:6-7)

イザヤが、イエスが来られ、統治権を持つ王国を樹立すると述べていることに注目してください。キリストを信仰する者の多くは、特に毎年12月になるとこの聖句を引用しますが、この聖句がイエスの誕生を預言している以上のことを見落としがちです。聖書は、神の王国には民を支配する律法を持つ統治権があり、イエスはその王となることを示しています。イザヤ、ダニエル、そして他の預言者たちもこの預言をしました。

神の律法は愛の道であり(マタイ22:37-40; ヨハネ15:10)、神の王国はこれらの律法に基づいて統治されます。したがって、世の多くの人々がどう見ているかに関わらず、神の王国は愛に基づくものとなるのです。

詩篇とその他

神が来るべき神の王国について書くよう靈感を与えたのはダニエルとイザヤだけではありません。

エゼキエルは、全てその部族大艱難時代に散らされたイスラエル(ユダヤ人だけではない)の民が千年王国に集められるであろう。

¹⁷それゆえ、言いなさい。『主なる神はこう言われる。「わたしはあなたがたを諸国の民の中から集め、あなたがたが散らされた国々から集め、イスラエルの地をあなたがたに与える。』¹⁸そして彼らはそこへ行き、そこからすべての忌まわしいもの、すべての憎むべきものを取り除くであろう。¹⁹わたしは彼らに一つの心を与え、彼らの内に新しい霊を置き、彼らの肉から石の心を取り去って、肉の心を与える。²⁰彼らがわたしの定めに従い、わたしの掟を守り、それを行うように。そうすれば、彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる。²¹しかし、心が忌まわしいもの、忌まわしい行いを欲する者には、わたしはその行いを彼らの頭に報いる」と主なる神は言われる。(エゼキエル書 11:17-21)

イスラエルの部族の子孫はもはや散らされることはなく、神の掟に従い、忌まわしいものを食べるのをやめましょう(レビ記 11章、申命記 14章)。

神の王国の良いたよりについて、詩篇の中で次のことに注目してください。

²⁷地の果てまでも主を思い出して主に立ち返り、諸国の民のすべてがあなたの前にひれ伏すでしょう。²⁸王国は主のものだからである。主は諸国の民を治めておられる。(詩篇 22:27-28)

⁶神よ、あなたの御座は永遠に続きます。あなたの王国の笏は正義の笏です。(詩篇 45:6)

¹ああ、新しい歌を主に歌いましょう。全地よ、主に歌いましょう。²主に歌い、その御名を祝福し、日々主の救いの良い知らせを宣べ伝えなさい。³諸国民に神の栄光を、すべての民に神の奇跡を告げ知らせよ。(詩篇 96:1-3。歴代誌上 16:23-24も参照)

¹⁰主よ、あなたのすべての御業はあなたを讃え、あなたの聖徒たちはあなたを祝福します。¹¹彼らはあなたの王国の栄光を語り、あなたの力について語ります。¹²それは、神の偉大な業と、

神の王国の輝かしい威厳を人々の子らに知らせるためである。¹³あなたの王国は永遠の王国であり、あなたの統治は代々続きます。(詩篇 145:10-13)

旧約聖書の様々な著者も王国の側面について書いています(例:エゼキエル 20:33、オバデヤ 21、ミカ 4:7)。

ですから、イエスが神の王国の福音を教え始めたとき、イエスを直接聞いた人々はその基本的な概念をある程度知っていました。

4. 使徒たちは王国の福音を教えましたか。

多くの人は福音とはイエスという人物についての良い知らせであるかのように振る舞いますが、実際にはイエスの弟子たちは神の国の福音を教えたのです。それがイエスがもたらしたメッセージなのです。

使徒パウロは神の王国とイエスについてこう書いています。

⁸そして彼は会堂に入り、三か月間大胆に語り、神の国の事柄について論じ、説得した(使徒行伝 19:8)。

²⁵実際、私は、あなたたち全員を、あなたたちの間で神の王国を宣べ伝えてきたことを知っています。(使徒行伝 20:25)

²³そこで、彼らが日にちを決めたとき、大勢の人が彼の宿に来了。パウロは朝から晩まで、神の王国について説明し、厳粛に証し、モーセの律法と預言者の教えに基づいて、イエスについて人々を説得した。³¹神の王国を宣べ伝え、主イエス・キリストに関することを、全くの確信をもって教え、だれもそれを禁じなかった。(使徒行伝 28:23,31)

神の王国はイエスだけに関するものではないことに注目してください（イエスは神の王国の重要な部分ではありますが）。パウロは神の王国について教えたものとは別に、イエスについても教えました。

パウロはそれを神の福音とも呼びましたが、それはやはり神の王国の福音でした。

⁹...私たちはあなた方に神の福音を宣べ伝えました...¹²あなたたちを神の御国と栄光に招いてくださる神にふさわしく歩むためです。（テサロニケ第一 2:9,12）

パウロもこれをキリストの福音と呼んでいます（ローマ1:16）。イエスの「良いメッセージ」、つまりイエスが教えられたメッセージです。

それは単にイエス・キリストという人物について、あるいは個人の救いについてだけを語る福音ではなかったことを考えてみてください。パウロは、キリストの福音にはイエスに従うこと、イエスの再臨、そして神の裁きが含まれると述べています。

⁶...神はあなたたちを苦しめる者には苦難をもって報いてくださるでしょう。⁷主イエスが力ある天使たちを率いて天から現れるとき、苦悩するあなたたちに私たちと共に安息を与えるためです。⁸神を知らない者たちと、わたしたちの主イエス・キリストの福音に従わない者たちに、燃える火で復讐するのです。⁹彼らは主の御前から、そして主の力の栄光から、永遠の滅びによって罰せられるであろう。¹⁰その日、主が来られるとき、主は聖徒たちの中で栄光を受け、信じるすべての人々の中で称賛されるでしょう。私たちの証言があなたたちの間で信じられたからです。（テサロニケ人への第二の手紙 1:6-10）

新約聖書は、王国は私たちが今それを完全に所有しているのではなく、私たちが受け取るものであることを示しています。

²⁸私たちは揺るぎない王国を受け継いでいます（ヘブル12:28）。

私たちは今、神の王国の一員となることを理解し、それを楽しみに待っていますが、まだ完全にはそこに入ったわけではありません。

パウロは、人が死すべき人間として神の王国に完全に入ることは不可能であると明確に述べています。後復活：

⁵⁰兄弟たちよ、わたしはこう言います。肉と血は神の王国を受け継ぐことはできません。また、朽ちるものは朽ちないものを受け継ぐことはできません。⁵¹見よ、私はあなた方に奥義を告げる。私たちはみな眠りにつくのではなく、みな変えられるのだ。⁵²一瞬のうちに、またたきの内に、最後のラッパの音とともに。ラッパが鳴り響くと、死者は朽ちることなくよみがえり、私たちは変えられるのです。(コリント人への第一の手紙 15:50-52)

¹ですから、私は神と、ご自身の出現と御国のときに生きている者と死んだ者を裁かれる主イエス・キリストの前で、あなたに命じます。

(テモテへの第二の手紙4章1節)

パウロはそれを教えるだけでなく、イエスが王国を父なる神に引き渡すとも教えました。

²⁰しかし、今やキリストは死人の中から復活し、眠りについた人々の初穂となりました。²¹死は人によって来たのだから、死者の復活もまた人によって来るからである。²²アダムにあってすべての人が死ぬのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのです。²³しかし、それぞれの順序があります。最初にキリストが生まれ、その次にキリストが来られるときにキリストのものとなる人たちが生まれます。²⁴そして終わりが来ます。イエスは王国を父なる神に引き渡し、すべての支配、すべての権威と力を終わらせます。²⁵なぜなら、キリストはすべての敵をその足元に置くまで、支配し続けなければならないからです。(コリントの信徒への手紙一 15:20-25)

パウロはまた、不義な者(戒律を破る者)は神の王国を受け継ぐことはできないと教えました。

⁹不義なる者は神の国を受け継がないことを、知らないのですか。惑わされてはいけません。不品行な者、偶像を礼拝する者、姦淫する者、男色をする者、男色をする者、¹⁰盗む者、貪欲

な者、酒に酔う者、ののしる者、ゆすり取る者は、神の国を受け継ぐことはありません(コリント人への第一の手紙 6:9-10)。

¹⁹さて、肉の行いは明らかです。それは姦淫、不品行、汚れ、好色、²⁰偶像崇拜、魔術、憎しみ、争い、嫉妬、怒りの爆発、利己的な野心、不和、異端、²¹ねたみ、殺人、泥酔、浮かれ騒ぎ、その他、これらのことを行なう者が神の国を受け継ぐことはない、以前から言っておいたように、今から前もって言っておきます。(ガラテヤ人への手紙 5:19-21)

⁵あなた方も知っているとおり、不品行な者、汚れた者、貪欲な者、つまり偶像を礼拝する者は、キリストと神との王国を受け継ぐことはできません。(エペソ人への手紙 5:5)

神は基準を持っており、神の国に入るためには罪からの悔い改めを要求します。使徒パウロは、イエスの福音が答えであると教えない人もいるが、そう教える人もいると警告しました。

³父なる神と主イエス・キリストからの恵みと平安があなた方にありますように。⁴キリストは、私たちの神であり父である御方の御心に従って、私たちの罪のためにご自身をささげ、この邪悪な世から私たちを救い出してくださいました。⁵永遠に栄光が主にあらんことを。アーメン。⁶キリストの恵みによってあなたを召してくださった方から、こんなにも早く別の福音へと背を向けようとしていることに、私は驚いています。⁷それは別のことはありません。ある人たちはあなたがたを惑わし、キリストの福音を曲げようとしているのです。⁸しかし、たとえ私たちであろうと、あるいは天からの御使いであろうと、私たちが宣べ伝えた福音と違うことをあなた方に宣べ伝えるなら、その者は呪われるべきです。⁹前にも言ったように、今また言います。もしだれかが、あなたがたが受けた福音に反することをあなたがたに宣べ伝えるなら、その人はのろわれるべきです。(ガラテヤ人への手紙 1:3-9)

³しかし、私は、蛇が悪巧みでエバを欺いたように、あなたがたの思いが墮落して、キリストにある純粋さを失ってしまうのではないかと心配しています。⁴なぜなら、もし来る者が、わたしたちが宣べ伝えたことのない別のイエスを宣べ伝えたり、あなたが

たが受けたことのない異なった霊を受けたり、あなたがたが受け入れたことのない異なった福音を受けたりしたとしても、あなたがたはそれを我慢しなさい。(コリントの信徒への手紙二 11:3-4)

「もう一つの」「異なる」、実際には偽りの福音とは何だったのでしょうか。

偽りの福音にはさまざまな部分があります。

一般的に、偽りの福音とは、神を知っていると主張しながら、神に従う必要はなく、神の道に忠実に生きようと真に努力する必要はないと信じることです(マタイ7:21-23参照)。それは利己的な傾向にあります。

蛇は今から約6000年前(創世記3章)、エバを偽りの福音に陥れました。それ以来、人間は神よりも自分たちの方がよく知っている信じ、善悪は自分で決めるべきだと考えてきました。そうです、イエスの来臨後も、イエスの名は様々な偽りの福音にしばしば結び付けられてきました。そして、この傾向は今も続いており、最後の反キリストの時代まで続くでしょう。

さて、使徒パウロの時代、偽りの福音は本質的にグノーシス主義と神秘主義の真理と誤謬の混合物でした。グノーシス主義者は基本的に、救済を含む霊的洞察を得るには特別な知識が必要であると信じていました。グノーシス主義者は、肉の行いは特に重要ではないと考え、第七日安息日のような事柄において神に従うことに反対していました。そのような偽りの指導者の一人がシモン・マグスであり、彼は使徒ペテロから叱責され、警告を受けました(使徒行伝 8:18-21)。

しかしそれは簡単ではない

新約聖書はフィリッポが神の王国について教えたことを示しています。

⁵それからフィリポはサマリアの町へ下って行き、人々にキリストを宣べ伝えた。...¹²フィリポが神の王国について説教すると、彼らは彼を信じた。(使徒行伝 8:5,12)

それでも、イエスとパウロ、そして弟子たちは、神の王国に入るのは容易ではないと教えました。

²⁴イエスは彼が非常に悲しんでいるのを見て、こう言われた。「富を持っている者が神の国に入るのは、なんと難しいことか。
²⁵金持ちが神の王国に入るよりは、らくだが針の穴を通る方がもっと易しい。」

²⁶すると、それを聞いた人々は言った。「それでは、だれが救われるのでしょうか。」

²⁷しかしイエスはこう言われました。「人にはできないことも、神にはできるのです。」(ルカ18:24-27)

²²「わたしたちは多くの苦難を経て神の国に入らなければなりません。」(使徒行伝14:22)

³兄弟たちよ、私たちはいつもあなたたちのために神に感謝しなければなりません。

それは、あなたがたの信仰がますます成長し、あなたがた一人一人の愛が互いに満ちあふれているからです。⁴ですから、私たち自身も、あなたがたが受けてきたあらゆる迫害と苦難の中での忍耐と信仰のゆえに、神の諸教会の中であなたがたのことを誇りにしています。⁵それは、神の正しい裁きの明白な証拠であり、それによって、あなたがたは神の王国にふさわしい者とみなされるのです。あなたがたも、そのために苦しみを受けているのです。⁶あなたたちを苦しめる者には苦難をもって報いるのが神の義であるから、⁷主イエスが力ある御使いたちを伴って天から現れるとき、苦しんでいるあなたがたに、私たちとともに平安を与えるためです。(テサロニケ人への第二の手紙 1:3-7)

この時代の困難のために、今この時代に召され、選ばれているのはごく限られた人々だけです(マタイ22:1-14、ヨハネ6:44、ヘブル6:4-6)。聖書が示しているように、「霊に迷っていた者は悟りを得、不平を言っていた者は教えを学ぶ」(イザヤ29:24)ように、他の人々は後に召されるでしょう。

使徒ペテロは、王国は永遠であり、神の福音に熱心に従わなければ裁きが下ると教えました。

¹⁰ですから、兄弟たちよ。あなたがたの召しと選びとを確実にするために、さらに熱心に努めなさい。これらのことを行えば、あなたがたは決してつまづくことはないでしょう。¹¹そうすれば、わたしたちの主であり救い主であるイエス・キリストの永遠の王国に入るための入口が、あなたたちに豊かに与えられるのです。(ペテロの手紙二 1:10-11)

¹⁷神の家から裁きが始まる時が来たからです。もしそれがまず私たちから始まるのなら、神の福音に従わない人々の終わりには、どうなるでしょうか。(ペテロ第一 4:17)

聖書の最後の書と王国

聖書は「神は愛である」(ヨハネ第一 4:8,16)こと、そしてイエスが神である(ヨハネ 1:1,14)ことを教えています。神の王国には愛そのものであり、その法は憎しみではなく愛を支持する王がいます(黙示録 22:14-15 参照)。

聖書はまた、神が天使を遣わし、神の王国の永遠の福音を宣べ伝える(黙示録 14:6-7)こと、そして別の天使を遣わし、バビロンが一見強大に見えるものの、滅びることを告げる(黙示録 14:8-9)ことを示しています。これらのメッセージは、世界が既に証人として受け入れている福音の超自然的な確証であり、終末期に神のもとに来る「大群衆」にとっての要因となるでしょう(黙示録 7:9-14)。最終的に興亡するバビロンの勢力とは異なり(黙示録 18:1-18 参照)、神の王国の最終段階は永遠に続きます。

¹⁵それから第七の天使がラッパを吹き鳴らしました。すると、天に大きな声が起こってこう言いました。「この世の国々は、わたしたちの主とそのキリストのものとなった。主は永遠に支配されるであろう。」(黙示録 11:15)

イエスは王国を統治します！ 聖書はイエスの二つの称号を明らかにしています。

¹⁶そして、その衣と腿には、「万王の王、万主の主」と書かれた名がある。(黙示録 19:16)

しかし、統治するのはイエスだけなのでしょうか？ 次の聖句に注目してください。

⁴また、わたしは玉座を見た。人々がその上に座っており、裁きが彼らに委ねられていた。それからわたしは、イエスの証しと神の言葉のために首を切られた人々の魂を見た。彼らは獣もその像も拝まず、額や手に獣の刻印を受けなかった。彼らは生き続け、キリストと共に千年の間、支配した。⁶第一の復活にあずかる者は幸いであり、聖なる者である。そのような者に対して第二の死は力を持たず、彼らは神とキリストの祭司となり、キリストと共に千年の間支配する(黙示録20:4,6)。

真のクリスチャンは復活し、キリストと共に千年の間統治します。王国は永遠に続きます(黙示録 11:15)。しかし、黙示録 20:6 に記されている最初の復活した聖徒たちによる統治は、たった千年でした。だからこそ、私は先ほどこれを王国の第一段階、つまり、より霊的な最終段階ではなく、物理的な千年期段階と呼んだのです。

ヨハネの黙示録には、千年王国と神の王国の最終段階の間に起こるいくつかの出来事が記されています。

⁷さて、千年が過ぎると、サタンは牢獄から解放される⁸そして、地の四隅にいる諸国民、ゴグとマゴグを惑わすために出て行き、彼らを戦いのために集めるであろう。その数は海の砂の数ほどである。...¹¹わたしはまた、大きな白い御座と、そこに座しておられる方を見た。御座の前から、地と天は逃げ去った。そして、それらの行く手は、もはやどこにも見いだされなくなった。¹²そして、私は死んだ者たちが、小さな者も大きな者も、神の前に立っているのを見た。そして、書物が開かれた。もう一つの書物が開かれた。それはいのちの書である。そして、死人はその行いに応じて、その書物に書かれていることに従って裁かれた。¹³海はその中にいる死者を出し、死と黄泉もその中にいる死者を引き渡した。そして、彼らはそれぞれ自分の行いに応じて裁かれた。¹⁴それから、死とハデスは火の池に投げ込まれました。これが第二の死です。¹⁵そして、いのちの書に名が記されていない者はみな、火の池に投げ込まれた(黙示録 20:7-8, 11-15)。

ヨハネの黙示録は、千年王国の統治の後、そして悔い改めと神の道を永久に拒否する者たちの第二の死の後に、王国の後の段階が来ることを示しています。

¹わたしはまた、新しい天と新しい地を見た。最初の天と最初の地は過ぎ去っていた。また、海もなくなった。²そのとき、私ヨハネは、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように整えられて、神のもとから天から下って来るのを見た。³そして、わたしは天から大きな声がこう言うのを聞いた。「見よ、神の幕屋が人々と共にあり、神が彼らと共に住み、彼らは神の民となる。神自ら彼らと共にいて、彼らの神となられる。」⁴神は彼らの目から涙をことごとくぬぐい去って下さる。もはや死もなく、悲しみも、叫びもなく、もはや苦痛もない。以前のものは過ぎ去ったからである。」(黙示録 21:1-4)

¹そして、彼は私に、水晶のように澄んだ、純粋な命の水の川が神と小羊の御座から流れ出ているのを見せた。²街路の真ん中、川の両岸には命の木があり、十二の実を結び、それぞれの木は毎月実を結んでいました。その木の葉は諸国民の癒しのためにありました。³そして、もはや呪いはなく、神と小羊との御座がそこにあり、神のしもべたちは神に仕えるであろう。⁴彼らは彼の顔を見、彼の名が彼らの額に記されるであろう。⁵そこには夜はない。彼らはランプも太陽の光も必要としない。主なる神が彼らに光を与えるからである。彼らは永遠に支配する。(黙示録 22:1-5)

この統治は後千年は神の僕たちも含み、永遠に続きます。天に備えられた聖都は天を離れ、地上に降りてきます。これは神の王国の最終段階の始まりです。もはや苦痛も苦しみもない時代です！

柔和な者は地を受け継ぎ(マタイ5:5)、すべてのものを受け継ぎます(黙示録21:7)。神の道が実行されることにより、地は、そこに置かれる聖都を含め、より良くなるでしょう。次のことを理解してください。

⁷彼の統治と平和の増大には終わりが無い(イザヤ書 9:7)。

明らかに、神の王国の最終段階が始まった後には、すべての人が神の政府に従うので、成長が見られるでしょう。

これは最も栄光ある時となるでしょう。

⁹しかし、聖書に書いてあるとおりです。「神を愛する者たちのために神が備えておられることは、目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮かんだこともない。」¹⁰しかし、神は御霊を通してそれを私たちに明らかにされました(コリント人への第一の手紙 2:9-10)。

それは愛と喜び、そして永遠の慰めに満ちた時です。素晴らしい時となるでしょう！神の王国は、私たちにとってさらに素晴らしい永遠をもたらします。あなたもその一端を担いたいと思いませんか？

5. 新約聖書以外の資料は神の王国について教えている

初期のキリスト教徒たちは、文字通り神の王国の福音を説くべきだと考えていたのでしょうか。

はい。

数年前、ノースカロライナ大学のバート・アーマン教授は講義の中で、今日のキリスト教徒の多くとは異なり、イエスとその初期の弟子たちは神の王国を宣べ伝えたと繰り返し、そして正しく強調しました。アーマン教授のキリスト教に対する全体的な理解は、現代のキリスト教の理解とは大きく異なりますが、続く神の教会として、私たちは神の国の福音はイエス自身が宣べ伝え、イエスの弟子たちが信じたものであるという点に同意します。また、今日キリスト教徒であると主張する多くの人々がそれを理解していないという点にも同意します。

新約聖書以降に現存する最古の文書と説教

神の王国は、「現存する最古の完全なキリスト教の説教」とされる説教の重要な部分を占めていました(Holmes M.W. Ancient Christian Sermon. The Apostolic Fathers: Greek Texts and English Translations, 2nd ed. Baker Books, Grand Rapids, 2004, p. 102)。古代キリスト教の説教王国についての次のような記述があります。

^{5:5}さらに、兄弟たちよ、あなたがたも知っているように、肉の世界に私たちが留まるのは取るに足らない、はかないことですが、キリストの約束は偉大で驚くべきものです。それは、来たるべき御国と永遠の命で安息を得るというものです。

上記の記述は、神の国が今ではなく、やがて来て永遠に続くことを示しています。さらに、この古代の説教は次のように述べています。

^{6:9}さて、このような義人でさえ、自らの義の行いによって子供たちを救うことができないのであれば、私たちが洗礼を清く汚れないまま保たなければ、神の国に入れるという保証はどこにありますか。また、私たちが聖なる義の行いをしていないと認められなければ、誰が私たちの弁護者となるでしょうか。^{9時6分}ですから、私たちは互いに愛し合ひましょう。そうすれば、私たちはみな、神の王国に入ることができるのです。^{11時7分}したがって、神の目に何が正しいかを知るなら、私たちは神の王国に入り、「耳が聞いたこともなく、目が見たこともなく、人の心に思い浮かんだこともない」約束を受けるでしょう。

^{12:1}ですから、私たちは、神の出現の日がいつになるか分からないので、愛と正義をもって、神の王国を一刻一刻待ちましょう。

^{12時6分}イエスは、「わたしの父の王国が来る」と言われました。

上記の記述は、正しい生き方を通して愛を示すことが必要であり、私たちはまだ神の王国に入っていないこと、そして神の王国は神の出現の日、つまりイエスの再臨の後に実現することを示しています。それは父の王国であり、イエスだけの王国ではありません。

神が存続を許した最も古いキリスト教の説教が、新約聖書が教えるのと同じ神の王国を教えていることは興味深い。続く神の教会は現在、教えています(実際の神の教会からのものである可能性はありますが、

ギリシャ語の知識が限られているため、より明確な宣言を行うことができません)。

2世紀の教会指導者と神の国の福音

2の初めに注目すべきはnd18世紀に、ヨハネの教えを聞き、ポリュカルポスの友人であり、ローマカトリック教会から聖人とみなされていたパピアスが千年王国について説いたと記録されている。エウセビオスはパピアスの教えを次のように記している。

...死者からの復活後、キリストの直轄地における統治が確立される千年期が到来する。(パピアス断片集、VI。エウセビオス『教会史』第3巻、XXXIX、12も参照)

パピアスは、この時期は豊かな時代になると教えました。

同様に、一粒の小麦は十粒の

千の穂があり、それぞれの穂に一万の穀物があり、それぞれの穀物から十ポンドの澄んだ純粋な小麦粉が採れるであろう。リンゴ、種子、草も同様の割合で実るであろう。そして、すべての動物は、大地の産物だけを食べて、平和で調和のとれた人間に完全に従うであろう。][これらのことは、ヨハネの教えを聞き、ポリュカルポスの友人でもあった古代人パピアスの著作第四巻に記されている。彼は五冊の本を著した...] (パピアス断片集、IV)

新約聖書の投稿コリント人への手紙状態:

^{42:1-3}使徒たちは主イエス・キリストから私たちのために福音を受けました。イエス・キリストは神から遣わされました。ですから、キリストは神から来られ、使徒たちもキリストから来られたのです。ですから、両者とも神の御心によって定められた順序で来たのです。ですから、彼らは命令を受け、主イエス・キリストの復活によって完全な確信を得、聖霊による完全な確信をもって神の御言葉によって確証を得て、神の王国が来るという喜ばしいおとずれを携えて出発したのです。

スミルナのポリュカルポスは初期キリスト教の指導者であり、最初の使徒たちの中で最後に亡くなったヨハネの弟子でもありました。ポリュカルポスは西暦120年から135年頃に次のように教えました。

貧しい人々と、義のために迫害されている人々は幸いである。神の国は彼らのものである。(ポリカルポス。ピリピンへの手紙、第2章。アンテニケア教父集成、第1巻アレクサンダー・ロバーツとジェームズ・ドナルドソン編。アメリカ版、1885年)

ですから、「神は侮られるような方ではない」ということを知り、私たちは神の戒めと栄光にふさわしい歩みをすべきです。...なぜなら、世にある欲から切り離されるのは良いことです。「あらゆる欲は霊と戦う」からです。また、「不品行な者、女々しい者、男色にふさわしくない者、また、不品行でふさわしくない行いをする者は、神の国を受け継ぐことはありません。」(同書、第5章)

ですから、主が私たちに命じられたように、また私たちに福音を宣べ伝えた使徒たちや、主の来臨を前もって告げた預言者たちのように、私たちは畏れと敬意をもって主に仕えましょう。(同書、第6章)

新約聖書の他の人々と同様に、ポリカルポスは、戒律を破る者ではなく、義なる者が神の王国を受け継ぐと教えました。

ポリカルポスによって次のような教えも説かれていたとされる。

そして次の安息日に彼は言った。「神の愛する子らよ、私の勧めを聞きなさい。司教たちが出席していた時、私はあなた方に誓いました。そして今、私は再びあなた方全員に、主の道を礼儀正しく、ふさわしく歩むよう勧めます...」見張って、そしてまた備えよ、心を沈めてはならない、互いに愛し合うことに関する新しい戒め、稲妻のように突然現れる主の来臨、火による大いなる審判、永遠の命、そして主の不滅の王国。そして、神から教えられているすべてのことを、靈感を受けた聖書を調べるとき、聖霊の筆で心に刻み込みなさい。そうすれば、戒めはあなたたちの心に消えることなく残るであろう。」(ポリカルポスの生涯、

第24章。J・B・ライトフット著『使徒教父』第3巻第2号、1889年、488-506ページ)

西暦170年頃の神の教会の指導者であったサルディスのメリトスは次のように教えました。

実際、律法は福音の中に発せられ、古いものは新しいものの中に発せられ、両方ともシオンとエルサレムから共に発せられ、戒めは恵みの中に発せられ、型は完成されたものの中にあり、小羊は御子の中にあり、羊は人の中にあり、人は神の中にあるのです...

しかし福音は律法とその

教会は真理の宝庫となり、成就しました。

この方こそ、私たちが奴隷状態から自由へ、闇から光へ、死から命へ、暴政から永遠の王国へと救い出してくださった方です。(メリト著『過越祭の説教』7節、40節、68節。Kerux: The Journal of Online Theologyより翻訳。
<http://www.kerux.com/documents/KeruxV4N1A1.asp>)

したがって、神の王国は、単に現在のキリスト教やローマカトリック教会ではなく、永遠のものであり、神の律法を含むものとして知られていました。

2 世紀中期から後半にかけて書かれた別の文書では、人々に王国に目を向けるよう勧めています。

ですから、あなた方のうちの誰一人として、もはや偽りを言ったり、後ろを振り返ったりせず、むしろ進んで神の国の福音に近づきなさい。(ローマ・クレメンس著『認識』第10巻第45章。『ニケア前教父』第8巻より抜粋。アレクサンダー・ロバーツとジェームズ・ドナルドソン編。アメリカ版、1886年)

さらに、それは真の教会の者によって書かれたものではないようですが、2世紀半ばの「ヘルマスの羊飼」ロバーツとドナルドソンの翻訳では、「神の王国」という表現が14回使用されています。

真のクリスチャン、そして単にキリストを信仰していると公言する多くの
人々でさえ、2世紀には神の王国についてある程度のことを知っていました。

ローマカトリック教会と東方正教会の聖人エイレネオでさえ、キリスト教徒は復活後に神の国に入ることを理解していました。彼が西暦180年頃
に書いたものに注目してください。

信じる者の状態はまさにこのようである。彼らの中には、洗礼において神から与えられた聖霊が常に宿っているからである。聖霊は、真実と聖潔と正義と忍耐のうちに歩むならば、受け取る者によって留められている。信じる者の中には、この魂が復活し、体は再び魂を受け取り、それと共に聖霊の力によって復活し、神の国に入るのである。(リヨン司教聖イレネオ。アルメニア語からアーミテージ・ロビンソン訳。使徒的説教の実証、第42章。ウェルズ、サマセット、1879年10月。SOCIETY FOR PROMOTING CHRISTIAN KNOWLEDGE. NEW YORK: THE MACMILLAN CO, 1920に掲載。)

アンティオキアのテオフィロスがこう教えました。

私はただ神の善良さについて述べているに過ぎません。もし私が神を王国と呼ぶなら、私はただ神の栄光について述べているに過ぎません。...もし神が彼を初めから不死にしていたなら、彼を神にしていたでしょう。...ですから、神は彼を不死にすることも、まだ死すべき存在にすることもできなかったのです。しかし、既に述べたように、彼はその両方を行うことができるようにされたのです。ですから、もし彼が神の戒めを守りながら、不死の事柄に傾倒するならば、彼は神から報いとして不死を受け取り、神となるのです。(テオフィロス『アウトリュコスに』1:3、2:27)

3世紀初頭のローマカトリックの聖人ヒッポリュトスは次のように書いています。

そして、あなたは天の王国を受けるであろう。この世に逗留していた間、天の王を知っていたあなたは。そしてあなたは神の伴侶となり、キリストの共同相続人となり、もはや情欲や情熱に囚

われることなく、二度と病に蝕まれることはない。あなたは神となったのだ。人間であった間にあなたが受けた痛みはすべて、あなたが死すべき体であったために神があなたに与えたものであり、神が与えることが許すものはすべて、あなたが神格化され、不死へと生まれたために、神があなたに与えると約束したのだ。(ヒッポリュトス著『異端反駁』第10巻第30章)

人間の目標は、来たるべき神の王国において神格化される(文字通り神の子として、詩篇 82:6 参照)ことです。

神の王国の到来は、初期のカトリック教会の教えでした(ccog.orgで入手可能な無料の電子書籍も参照してください。[元来のカトリック教会の信条: 残存グループは使徒継承を継続できるでしょうか?](#))。

2世紀と3世紀の問題

神の王国が広く受け入れられていたにもかかわらず、2世紀には反律法の背教指導者マルキオンが現れました。マルキオンは神の律法、安息日、そして文字通りの神の王国に反対する教えを説きました。彼はポリュカルポスらから非難されましたが、ローマ教会と長年にわたり交流を持ち、ローマ教会に大きな影響力を持っていたようです。

2世紀と3世紀には、アレクサンドリア(エジプト)で寓意論者が台頭し始めました。多くの寓意論者は、文字通りの神の王国という教義に反対しました。そうした寓意論者の一部に関する記述に注目してください。

ディオニュシオスはアレクサンドリアの裕福な異教徒の家庭に生まれ、異教徒の哲学を学びました。彼は異教の学校を離れ、オリゲネスの弟子となり、アレクサンドリアの教理学校の責任者としてオリゲネスの後を継ぎました...

クレメンス、オリゲネス、そしてグノーシス派は、空想的で寓意的な解釈によって聖なる神託の教義を墮落させていました...彼らは「寓意主義者」という名を得ました。ネポスは寓意主義者たちと公然と戦い、地上にはキリストの統治があると主張しました...

ディオニュシウスはネポスの信奉者たちと論争し、彼の記述によれば...「神の王国に今存在しているような状況」であった。こ

れは、教会の現在の状況において神の王国が存在するという最初の言及である...

ネ波斯は彼らの誤りを叱責し、天国は寓話的なものではなく、永遠の命への復活における私たちの主の文字通りの来るべき王国であると示しました...

したがって、現在の状況で王国が来るという考えは、帝国の司教が王位に就いていると見なされるようになる1世紀も前の紀元200年から250年にかけて、エジプトの寓意学者のグノーシス派によって考案され、提唱されたのです...

クレメンスは神の王国を、神についての真の精神的知識の状態として捉えました。オリゲネスはそれを、聖書の平易な言葉の中に隠された霊的な意味として提示しました。(ヘンリー・ダナ・ワード著『神の国の福音: この世のものではなく、この世にないもの、天の国に来る王国、死者からの復活と万物の回復』クラクストン、レムゼン & ハッフェルフインガー社刊、1870年、124-125ページ)

このように、ネ波斯司教が神の王国の福音を説く一方で、寓意論者たちはそれを偽り、文字通りの意味から逸脱した理解をしようとしました。ヒエラポリスのアポリナリス司教もほぼ同時期に寓意論者の誤りと戦おうとしました。真に神の教会に属する人々は、歴史を通して文字通りの神の王国の真理を擁護しました。

ハーバート・W・アームストロングは王国の福音を教えた。さらに

20年代^{番目}18世紀、神の教会の近代フィラデルフィア時代の最初の指導者であった故ハーバート・W・アームストロング(黙示録3:7-13)は次のように書いています。

なぜなら彼らは拒否されたキリストの福音...、世界はそれに代わるものを作らなければならなかった。彼らは偽造！神の王国は、単なるありきたりな言葉、つまり人間の心にある心地よい感情として語られ、空虚で非現実的な無に矮小化されてきました。また、「教会」こそが王国であると誤解する人もいます。キリストの600年前に生きた預言者ダニエルは、神の王国が真の王国、つまり支配する政府であることを知っていました。

地球上の文字通りの人々...

ここに...神の王国とは何かについて、神が説明しておられます。「そしてこれらの王たちの時代に...」—ここでは、一部は鉄で一部は脆い粘土でできた十本の足指について語られています。これは、ダニエル書7章、そして黙示録13章と17章とを結び付けることで、今まさにあなたの目の前で形成されつつある新しいヨーロッパ合衆国を指しています。黙示録17章12節は、それが十の王、あるいは十の王国の連合体であり(黙示録17章8節)、古きローマ帝国を復活させるであろうという詳細を明らかにしています。

キリストが来られるとき、彼は王の王として来られ、全地を統治されます(黙示録19:11-16)。そして彼の王国は—神の王国。ダニエルは言った。「この世の王国を滅ぼす」ということである。黙示録11章15節にはこう記されている。「この世の王国はなる「われらの主とそのキリストの王国。彼は永遠に支配するであろう」！これが神の王国です。これは現在の政府 — そう、米国や英国諸国も — の終わりです。その時それらは主イエス・キリストの王国 — 政府となり、全地の王の王となるのです。これは神の王国が文字通りの政府であるという事実を完全に明らかにしています。カルデア帝国が王国であったように — ローマ帝国が王国であったように — 神の王国は政府です。それは世界の国々の政府を引き継ぎます。イエス・キリストは王 — 支配者となるために生まれたのです！

1900年以上も前に聖地の丘や谷、そしてエルサレムの街路を歩かれたイエス・キリストが、再び来られます。イエスは再び来ると約束されました。十字架にかけられた後、神は三日三晩後にイエスを死から蘇らせました(マタイ12:40、使徒行伝2:32、コリント第一15:3-4)。イエスは神の御座に昇られました。宇宙統治の司令部です(使徒行伝1:9-11、ヘブライ1:3、8:1、10:12、黙示録3:21)。

彼は寓話の「貴族」であり、

神は「遠い国」で、すべての国の王の王として戴冠し、その後地上に戻る(ルカ19:12-27)。

また、イエスは「万物更新の時」まで天国にいらっしゃいます（使徒行伝3:19-21）。賠償以前の状態や状況への回復を意味します。この場合、地上における神の統治の回復、ひいては世界平和とユートピア的な状態の回復を意味します。

現在の世界の混乱、激化する戦争や争いは、神が介入しなければ、生き残る者は一人もいないほどの甚大な世界的混乱へと頂点を極めるでしょう（マタイ24:22）。その危機がまさに頂点に達し、もし遅らせれば地球上のすべての生命が消滅してしまう時、イエス・キリストは再臨されます。今回は、神聖な神として来られます。宇宙を支配する創造主の力と栄光のすべてを帯びて来られます（マタイ24:30、25:31）。イエスは「王の王、主の主」（黙示録19:16）として来られ、世界超政府を設立し、「鉄の杖をもって」（黙示録19:15、12:5）すべての国々を支配されます。

キリストは歓迎されない？

しかし、人類は歓喜の声をあげ、熱狂と熱狂をもって彼を歓迎するだろうか。伝統的なキリスト教の教会でさえもそうするだろうか。

彼らはそうしません！サタンの偽りの使者たち（コリント人への手紙二 11:13-15）に欺かれ、イエスが反キリストだと信じるのです。教会と諸国はイエスの到来に激怒し（黙示録 11:15 と 11:18）、軍隊は実際にイエスを滅ぼそうと戦おうとするでしょう（黙示録 17:14）。

諸国家は、来たるべき第三次世界大戦のクライマックスとなる戦いに臨み、エルサレムを戦場とします（ゼカリヤ書 14:1-2）。そしてキリストは再臨されます。超自然的な力によって、キリストは「敵対する諸国民と戦い」（3節）、彼らを完全に打ち破ります（黙示録 17:14）。「その日、キリストの足はオリブ山の上に立ち」ます。そこはエルサレムの東、ほんのすぐ近くです（ゼカリヤ書 14:4）。（アームストロング・H・W著『時代の神秘』、1984年）

聖書はイエスが再臨し、勝利を収めると宣言していますが、再臨の際には多くの人がイエスに抵抗するでしょう(黙示録 19:19)。多くの人は(聖書預言の誤解に基づいているだけでなく、偽預言者や神秘主義者の影響もあって)、再臨のイエスが最後の反キリストであると主張するでしょう。

以下もハーバート・アームストロングの発言です。

真の宗教 — 聖霊によって与えられた神の愛によって強化された神の真理...神とイエス・キリストを知ること、真理を知ること、そして神の神聖な愛の温かさを知ることの、言葉にできない喜び！...

神の真の教会の教えは、単に聖書の「すべての言葉に従って生きる」という教えです...

人々は「得る」道から「与える」道、つまり神の愛の道へと転向するでしょう。

新しい文明が今、地球を席卷するだろう！(同上)

新しい文明とは神の王国です。愛に基づく新しい文明が到来することを宣言することは、イエスとその弟子たちが説いた神の王国の真の福音の重要な部分です。私たちも、この世界に生きる者として、続く神の教会の説教。

ハーバート・アームストロングは、イエスが人間社会は従いたいと思っても、命の「与える道」、つまり愛の道を拒んでいると教えていることに気づきました。イエスの教えの意義を正しく理解している人はほとんどいないようです。

イエスによる救いは福音の一部である

ここまで読んでくださった方の中には、イエスの死が救いにどのような影響を与えるのか疑問に思われる方もいらっしゃるかもしれません。確かに、イエスの死は新約聖書とハーバート・W・アームストロングが記した福音の一部です。

新約聖書は福音にはイエスによる救いが含まれることを示しています。

¹⁶私はキリストの福音を恥じません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシャ人にも、信じるすべての人にとって救いを得させる神の力だからです。(ローマ1:16)

⁴そこで散らされた人々は至る所に伝道に行きました

その言葉。⁵それからフィリポはサマリアの町へ下って行き、人々にキリストを宣べ伝えた。...¹²しかし、フィリポが神の王国とイエス・キリストの名について説教すると、人々は彼を信じて、男も女もバプテスマを受けました。²⁵そこで彼らは主の言葉を証し、宣べ伝えた後、エルサレムに戻り、サマリア人の多くの村々で福音を宣べ伝えた。²⁶さて、主の天使がフィリポに語りました...⁴⁰フィリポはアソトで見つかり、そこを通過してすべての町々を伝道し、カイサリアに着いた。(使徒行伝 8:4,5,12,25,26,40)

¹⁸彼は彼らにイエスと復活について宣べ伝えた。(使徒行伝 17:18)

³⁰パウロは、自分の借りた家に丸二年間住み、訪ねてくる人すべてを迎え入れた。³¹ 神の王国を宣べ伝え、主イエス・キリストに関する事柄を教えることだれも彼を禁じることなく、確信を持ってそうしました。(使徒行伝 28:30-31)

説教にはイエスと神の国が含まれていたことに注目してください。残念なことに、ギリシャ・ローマ教会の教えには、神の国の福音の正しい理解が欠けている傾向があります。

実際、神は私たちをその御国の一員とするために、人間を深く愛し、イエスを遣わして私たちのために死なせてくださいました(ヨハネ3:16-17)。そして、神の恵みによって私たちを救ってくださいます(エペソ2:8)。そして、それは良い知らせの一部なのです(使徒行伝20:24)。

王国の福音は世界が必要としているものですが...

平和のために働くこと(マタイ 5:9)と善行をすることは、価値のある目標です(ヨハネ 2:13 参照)。

(ガラテヤ6:10)しかし、宗教指導者を含む多くの世界の指導者は、平和と繁栄をもたらすのは神の王国ではなく、国際的な人類の協力であると信じています。そして、彼らは一時的な成功を収めるかもしれませんが、成功しないばかりか、彼らの人間の努力の一部は、最終的に地球を、イエスが再臨して神の王国を樹立されなければ生命を維持できない状態にまで悪化させることになるでしょう(マタイ24:21-22)。神なしに人間が地球を修復することは、むなしい誤った福音です(詩篇127:1)。

世界中の多くの人々が、21世紀に新しい世界秩序を築くために、半宗教的なバビロニアの国際計画をまとめようとしている。st世紀。これは続く教会は設立以来、非難を続けており、今後も非難を続けるつもりです。約6000年前(創世記3章)、サタンがエバを欺き、自らの福音の教えを信じ込ませて以来、多くの人間は、自分たちと世界をより良くするものは神よりも自分たちの方がよく知っていると感じてきました。

聖書によれば、「バビロニア」(黙示録17章と18章)の世界秩序をもたらすには、ヨーロッパの軍事指導者(北の王、黙示録13章1-10節の獣とも呼ばれる)と、七つの丘の町(黙示録17章9、18節)の宗教指導者(偽預言者、最後の反キリスト、黙示録13章11-17節の二本の角を持つ獣とも呼ばれる)の協力が必要となる。人類はキリストの再臨と神の王国の樹立を必要としているが、世界の多くの人々は21章におけるこのメッセージに耳を傾けないだろう。st21世紀もの間、人々はサタンの偽りの福音の様々なバージョンを信じ続けるでしょう。しかし、世界は証しを受けるでしょう。

イエスの教えを思い出してください。

¹⁴そして、この御国の福音は、あらゆる民への証しとして、全世界に宣べ伝えられるでしょう。それから、終わりの時が来ます。(マタイ24:14)

御国の福音が証人として世界に伝わり、その後に終わりが来ることに注目してください。その「終わり」とは、「大患難」の始まりのことです。

これにはいくつかの理由があります。

一つは、神は大艱難時代(マタイ伝24章21節で始まると示されています)が始まる前に、世の人々に真の福音を聞かせたいと願っておられるということです。したがって、福音のメッセージは証しであり、警告でもあります(エゼキエル書3章、アモス書3章7節参照)。その結果、イエスの再臨前に、異邦人の改宗(ローマ人への手紙11章25節)と非異邦人の改宗(ローマ人への手紙9章27節)がさらに増えるでしょう。

もう一つの理由は、そのメッセージの要点が、台頭する北の獣の王と、最後の反キリストである偽預言者の見解と相容れないからです。彼らは基本的に、人間の努力と宗教的妥協による平和を約束しますが、それは終末(マタイ24:14-22)と滅亡(テサロニケ第一5:3参照)へと至ります。

聖書は、本来の真の信仰のために戦うこと(ユダの手紙3章)、神の言葉は真理であること(ヨハネの手紙17章17節)、そして真のクリスチャンは異教と妥協する者と区別されるべきであること(コリントの信徒への手紙二6章14-17節)を説いているにもかかわらず、多くの人々は、自分たちの「福音」(良い知らせ)には平和と一致を保つための妥協が含まれると主張するでしょう。悲しいことに、神の王国の真の福音は、獣と偽預言者(最後の反キリスト)のエキュメニカルな、そして異宗教間の運動を推進する多くの人々によって、偽りの福音とみなされるでしょう。

しるしと偽りの奇跡(テサロニケ人への手紙二 2:9)を伴うため、世のほとんどの人々は福音のメッセージではなく、偽り(テサロニケ人への手紙二 2:9-12)を信じることを選ぶでしょう。ローマ・カトリック教会、東方正教会、ルーテル教会などによる千年王国の神の王国に対する不当な非難のため、多くの人々は、千年王国の神の王国の福音のメッセージは、獣と反キリストを伴う偽りの福音であると誤って主張するでしょう。

大艱難時代が始まる前に、忠実なフィラデルフィアのキリスト教徒(黙示録 3:7-13)は世界に出て(マタイ 24:14)、千年王国の福音を宣べ伝え、(獣や偽預言者を含む)この世の指導者たちが何をしようとしているかを世界に告げます。

彼らは、北の王である獣が、偽預言者、最後の反キリストと共に、最終的にアメリカ合衆国と、その同盟国の一部と共にイギリス、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドといったアングロ諸国を滅ぼす(ダニ

エル書 11:24,39)、そしてその後まもなくアラブ・イスラム連合を滅ぼす(ダニエル書 11:40-43)、悪魔の道具として機能し(黙示録 16:13-14)、そして最終的にはイエス・キリストの再臨に際して戦う(黙示録 16:14、19:19-20)というメッセージを世界に伝えることを支持するでしょう。忠実なフィラデルフィア人(黙示録 3:7-13)は、神の千年王国が間もなく到来することを告げ知らせるでしょう。

これはおそらく多くのメディアの注目を集め、マタイ伝24章14節の成就に貢献するだろう。続く神の教会は、マタイ伝24章14節が終わりの時の証しとして十分に備えられているという神の判断につながる「短い仕事」(ローマ人への手紙9章28節参照)に向けて、文献(複数の言語)を準備し、ウェブサイトを追加し、その他の措置を講じています。

「偽りの福音」を宣べ伝える世界の指導者たち(おそらくヨーロッパの「新しい」タイプのトップリーダーと妥協した法王)は、請求(カトリックの一形態である)信者たちは、そのような宣言を好まないだろう。彼らは、自分たちが実際に何をしようとしているのかを世に知られたくないのだ(そして、最初は彼ら自身もそれを信じないかもしれない。イザヤ書10章5-7節参照)。また、彼らや彼らの支持者たちは、忠実なフィラデルフィアのキリスト教徒たちが、反キリストの到来を説く過激な教義(千年王国説)を唱えていると誤って教える可能性が高い。彼らや彼らの支持者たちが、フィラデルフィアの信者たちや、続く神の教会は迫害を引き起こします(ダニエル書 11:29-35、黙示録 12:13-15)。これはまた、終わり、すなわち大難難時代の始まり(マタイによる福音書 24:21、ダニエル書 11:39、マタイによる福音書 24:14-15、ダニエル書 11:31参照)と、忠実なフィラデルフィアのクリスチャンのための3年半の保護期間(黙示録 3:10、12:14-16)につながります。

獣と偽預言者は、力づく、経済的脅迫、しるし、偽りの奇跡、殺人、その他の圧力(黙示録13:10-17、16:14、ダニエル書7:25、テサロニケ第二 2:9-10)を用いて支配を試みます。クリスチャンは次のように問いかけます。

¹⁰「聖なる真実なる主よ、いつまであなたは裁きを下し、地に住む者たちに私たちの血の復讐をされないのですか。」(黙示録 6:10)

昔から、神の民は疑問を持ち、こう尋ねてきました。「イエスの再臨にはどれくらい時間がかかるのでしょうか？」

私たちはその日や時刻を知りませんが、21世紀にイエスが再臨し、神の千年王国が樹立されることを期待しています。²⁸この預言は、多くの聖句(マタイによる福音書 24:4-34、詩篇 90:4、ホセア書 6:2、ルカによる福音書 21:7-36、ヘブライ人への手紙 1:1-2、4:4,11、ペテロの第二の手紙 3:3-8、テサロニケ人への第一の手紙 5:4 など)に基づいており、その一部は今成就しているのがわかります。

イエスが介入しなければ、人類はすべての生命を絶滅させてしまうでしょう。

²¹なぜなら、その時、世の初めから今に至るまで、かつてなかったような、また今後もないような大いなる苦難が起るからである。²²もしその日が縮められなければ、救われる者は一人もないでしょう。しかし、選ばれた者たちのためには、その日が縮められるのです。(マタイ24:21-22)

²⁹その日の苦難の後すぐに、太陽は暗くなり、月は光を放たず、星は天から落ち、天の万物は揺り動かされます。³⁰そのとき、人の子のしるしが天に現れるであろう。そのとき、地のすべての部族は嘆き、そして、人の子が力と大いなる栄光をもって天の雲に乗って来るのを、人々は見るであろう。³¹そして、神は御使いたちを遣わし、大きなラッパの音とともに、天の果てから果てまで、四方から御使いたちに選民を集めさせます。(マタイ伝 24:29-31)

神の王国こそ世界が必要としているものです。

王国の大使

王国におけるあなたの役割は何ですか？

今、あなたが真のクリスチャンであるなら、イエスと神の王国の大使となるべきです。使徒パウロが書いたことに注意してみましょう。

²⁰さて、私たちはキリストの使者です。神が私たちを通して懇願しておられるかのようです。キリストに代わってお願いします。どうか神と和解してください。(コリントの信徒への手紙二 5:20)

¹⁴だから、真理を帯びて腰を締め、正義の胸当てを着けて立ちなさい。¹⁵平和の福音の備えを足にはきなさい。¹⁶何よりもまず、信仰の盾を取りなさい。それによって、邪惡な者の放つ火の矢をすべて消すことができるでしょう。¹⁷救いのかぶとをかぶり、御霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。¹⁸あらゆる祈りと願いをもって、常に御霊によって祈りなさい。そのために目を覚まして、すべての聖徒のために忍耐強く祈り続けなさい。¹⁹そして、わたしには、福音の奥義を大胆に告げ知らせるために、言葉が与えられるように、²⁰わたしはこの福音のために鎖につながれた使節です。それは、この福音において、わたしが語るべきことを大胆に語れるためです。(エペソ人への手紙 6:14-20)

アンバサダーとは何ですか?メリアム・ウェブスター次のような定義があります。

1:公式特使;特に:外国政府または主権者に、自国政府または主権者の常駐代表として認定された、または特別かつしばしば一時的な外交任務に任命された最高位の外交官

21つの: 権限のある代表者またはメッセンジャー

あなたが真のクリスチャンなら、あなたはキリストの正式な使者です！使徒ペテロが書いたことに注意しましょう。

⁹しかし、あなたがたは選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神に所有された特別な民です。それは、あなたがたを暗闇から驚くべき光へと招き入れてくださった方の栄光を宣べ伝えるためなのです。¹⁰彼らはかつては神の民ではなかったが、今は神の民であり、かつては憐れみを受けなかったが、今は憐れみを受けている。(ペテロ第一 2:9-10)

キリスト教徒として、私たちは聖なる国家の一員となるべきです。

いま、どの国が聖なる国なのでしょうか？

確かに、この世の王国はどれもそうではありませんが、最終的にはキリストの王国の一部となるでしょう(黙示録 11:15)。神の国、神の王国こそが聖なる国なのです。

大使として、私たちは通常、この世界の国々の政治に直接関与することはありません。しかし、私たちは今、神の生き方を生きるべきなのです(無料の電子書籍もご覧ください)。www.ccog.org タイトル: キリスト教徒: 神の王国の大使、キリスト教徒として生きるための聖書の教え)。今、神の生き方に従って生きることによって、私たちは神の道がなぜ最善なのかをより深く学び、神の王国において王、祭司となり、キリストと共に地上で統治することができるのです。

⁵ 私たちを愛し、御自身の血によって私たちの罪を清めてくださった方に、⁶ そして、私たちを神であり父である御方の王とし、祭司としてくださいました。永遠に栄光と権威が神にありますように。アーメン。(黙示録 1:5-6)

¹⁰ わたしたちを神の王とし、祭司とされました。わたしたちは地上を支配するでしょう。(黙示録 5:10)

王や祭司となることの将来的な側面の一つは、当時死すべき存在であった人々に神の道を歩むように教えることです。

¹⁹ 民はシオンのエルサレムに住む。あなたはもはや泣くことはない。主はあなたの叫びの声に大いに恵みを施し、それを聞いてあなたに答えてくださる。²⁰ 主はあなたたちに逆境のパンと苦しみの水を与えても、あなたたちの教師たちはもう隅に追いやられることはなく、あなたたちの目はあなたたちの教師たちを見るであろう。²¹ あなたの耳はあなたの後ろで声を聞くであろう。「これが道だ。これに歩め。」あなたが右に曲がりとうも、左に曲がりとうも。(イザヤ書 30:19-21)

これは千年王国の預言ですが、この時代にキリスト教徒は次のことを教える用意をする必要があります。

¹² ...あなたたちはもう教師になっているべきです(ヘブル人への手紙 5:12)

¹⁵しかし、主なる神を心の中で聖別しなさい。そして、あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には、いつでも、柔和に、恐れおののいて弁明できる用意をしていなさい。(1ペテロ3:15、KJV)

聖書は、大患難が始まる直前に、より信仰深いキリスト教徒の多くが、多くの人々に次のように教えるであろうことを示しています。

³³そして、理解する人々は多くの人々を教えるであろう(ダニエル書11:33)

ですから、恵みと知識を学び、成長させること(ペテロの手紙二 3:18)は、今私たちがすべきことです。神の国におけるあなたの役割の一つは、教えることができるようになることです。

そして、より忠実なフィラデルフィアのキリスト教徒(黙示録 3:7-13)にとっては、これは神の千年王国が始まる前に重要な福音の証言を支持することも意味します(マタイ 24:14 参照)。

神の王国が樹立された後、神の民は破壊された惑星の修復を助けるために用いられるでしょう。

¹²あなたたちのうちの者たちは、廃墟となった古い場所を再建するであろう。

あなたは幾世代にもわたる礎を築き上げ、破れ目を修復し、街路を再建して住まわせる者と呼ばれるであろう。(イザヤ書 58:12)

したがって、この時代に神の道を歩んだ神の民は、千年王国の回復の時期に人々が都市(およびその他の場所)に居住することを容易にするでしょう。

世界は本当により良い場所になるでしょう。私たちは今、キリストの大使となり、神の王国で奉仕するべきです。

真の福音のメッセージは変革をもたらす

イエスは言われました。「わたしの言葉にとどまるなら、あなたたちは本当にわたしの弟子です。³² あなたたちは真理を知り、真理はあなたた

ちを自由にするでしょう。」(ヨハネ8:31-32) 神の国の福音についての真理を知ること、この世の偽りの希望に囚われることから私たちを解放します。私たちは、実現する計画、つまり神の計画を大胆に支持することができます。サタンは全世界を欺いてきました(黙示録12:9)。神の国こそが真の解決策です。私たちは真理を支持し、擁護する必要があります(ヨハネ18:37参照)。

福音のメッセージは個人の救いだけに関するものではありません。神の国の福音は、この時代に生きる人を変える力を持つはずです。

²この世と調子を合わせてはいけません。むしろ、心を一新して自分を変えなさい。そうすれば、神のみこころは何か、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるかをわきまえ知ることができるようになります。(ローマ人への手紙 12:2)

真のクリスチャンは神と他の人々に仕えるよう変えられます。

²²奴隷たちよ。肉に従う主人に、すべてのことにおいて従いなさい。人に迎合して、うわべだけの奉仕をするのではなく、神を畏れながら、真心から従いなさい。²³何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、心から行いなさい。²⁴あなたがたは主から相続の報酬を受けることを知っています。あなたがたは主キリストに仕えているからです。(コロサイ3:22-24)

²⁸ですから、私たちは揺るぎない御国を受け継いでいるのですから、恵みを受け、その恵みによって、敬虔な畏れと神への畏れをもって、神に喜ばれる仕えをしましょう。(ヘブル人への手紙 12:28)

真のクリスチャンは世とは違った生き方をします。私たちは、善悪を判断する基準として、世の基準よりも神の基準を受け入れます。義人は信仰によって生きます(ヘブル人への手紙 10:38)。この時代に神の道に生きるには信仰が必要です。クリスチャンは、彼らが生きていた世とは大きく異なっていると考えられていたため、新約聖書では彼らの生き方は「道」と呼ばれています(使徒行伝 9:2、19:9、24:14、22)。世は利己的に生き、サタンに欺かれ、「カインの道」と呼ばれています(ユダの手紙 11)。

神の国の福音は、義と喜びと平和のメッセージです(ローマ14:17)。預言の言葉は、正しく理解すれば、慰めを与えてくれます(コリントの信徒への手紙一14:3、テサロニケの信徒への手紙一4:18参照)。特に、世界が崩壊していくのを目の当たりにしている今、それはさらに大きな慰めとなります(ルカによる福音書21:8-36参照)。真のクリスチャンの生き方は、霊的な豊かさと物質的な祝福をもたらします(マルコによる福音書10:29-30)。だからこそ、クリスチャンは世界が神の国を必要としていることを理解するのです。クリスチャンは神の国の使者なのです。

キリスト教徒は、物質世界に生きているにもかかわらず、物質的なものではなく霊的な世界に希望を置きます(ローマ人への手紙8:5-8)。私たちには「福音の希望」があります(コロサイ人への手紙1:23)。これは初期のキリスト教徒が理解していたことですが、今日イエスを信仰する多くの人々は真に理解していません。

6. ギリシャ・ローマ教会は王国が重要であると教えているが...

ギリシャ・ローマ教会は神の王国の側面を教えていると信じていますが、それが本当は何であるかを本当に理解するのは困難です。例えば、カトリック百科事典王国についてこう教えています。

キリストの... イエスの教えのどの段階においても、この王国の到来、そのさまざまな側面、その正確な意味、それに到達する方法は、イエスの講話の柱となっており、その講話は「王国の福音」と呼ばれています...彼らは教会を「神の王国」と呼び始

めました。コロサイ人への手紙一、13、テサロニケ人への第一の手紙二、12、黙示録一、6、9、五、10などを参照。...それは教会を神の制度として意味しています...(ローマ教皇ヒエロニムス著『神の王国』カトリック百科事典第8巻、1910年)。

上記では「コロサイ1章13節、テサロニケ1章2節12節、黙示録1章6節9節、5章10節」とありますが、調べてみると、これらの節のどれにも、教会神の王国であると信じています。彼らは、信者は神の王国の一部となる、あるいはそれはイエスの王国であると教えています。聖書は、多くの人が福音を変えたり、別の、真実ではない福音に転向したりするだろうと警告しています(ガラテヤ1:3-9)。悲しいことに、多くの人がそうしてきました。

イエスは「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできない」(ヨハネ14:6)と教えました。ペテロは「ほかの人によっても救いはない。天の下にこの名のほかに、わたしたちを救いうる名は人に与えられていないからである」(使徒行伝4:12)と教えました。ペテロはユダヤ人に対し、救われるためには悔い改めてイエスを受け入れる信仰を持たなければならないと告げました(使徒行伝2:38)。

これとは対照的に、故フランシスコ教皇は、イエスを信じなくても無神論者は善行によって救われると教えました。また、ユダヤ人はイエスを受け入れなくても救われると教えています。さらに、フランシスコ教皇をはじめとする一部のギリシャ・ローマ人は、聖書に記されていない「マリア」が福音の鍵であると同時に、エキュメニカルな統一や諸宗教間の一致の鍵でもありと考えているようです。悲しいことに、彼らも他の人々もイエスの重要性も、神の国の真の福音も理解していません。多くの人が偽りの福音を広めています。

多くの人は、目に見えるものによって歩み、この世に信仰を持ちたいと願っています。新約聖書は、クリスチャンは上を見上げるべきであると教えています。

²地上のものではなく、上にあるものに心を留めなさい。(コロサイ3:2)

⁷私たちは、見えるものによらず、信仰によって歩んでいるのです。(コリント人への第二の手紙 5:7)

しかし、教皇ピウス11世は基本的に、教会の視点に従って歩むことを教えました。

...カトリック教会は...地上におけるキリストの王国である。(ピウスの回勅どれが最初ですか?)。

そのカトリック聖書¹⁰¹このウェブサイトは、「神の国は西暦33年にイエス・キリストによって地上に設立され、ペテロが率いる教会、つまりカトリック教会の形で設立されました」と主張しています。しかし、千年王国はここにはなく、ローマ教会でもありません。それが来る時、それは地上に来るでしょう。真の神の教会は「神の国の鍵」(マタイ16:19)を持っていますが、教会が神の国であると主張する者たちは「知識の鍵を取り去った」(ルカ11:52)のです。

ローマ教会は、間もなく到来する地上の千年王国に反対する教えを強く説いているため、公式の教会法典に記載されている「反キリストの教義」は基本的にこれのみである。カトリック教会のカテキズム:

676終末論的な審判を通してのみ歴史を超えて実現できるメシア的希望を、歴史の中で実現するという主張がなされるたびに、反キリストの欺瞞は既に世界で形を成し始めている。教会は、千年王国論という名の下に、来世の王国を偽装するこの主張の、たとえ修正された形であっても、それを拒絶してきた...
(『カトリック教会のカテキズム』、インプリマートウール・ポテスト+ヨゼフ・ラッツィンガー枢機卿、ダブルデイ、ニューヨーク、1995年、194ページ)

残念ながら、この立場に賛同する人々は、最終的に神の国の福音を宣べ伝える上で大きな問題に直面するでしょう。中には、宣べ伝える人々に対してひどい手段に出る者もいるでしょう(ダニエル書 7:25; 11:30-36)。しかし、イエスを主と告白する者は皆、神の国に入るのではないだろうか、とあなたは思うかもしれません。いいえ、そうではありません。イエスがこう言われたことに注目してください。

²¹「わたしに向かって『主よ、主よ』と言う者がみな天の王国に入るのではなく、天にいますわたしの父の御心を行う者だけが入

るのである。²²その日には、多くの者がわたしに言うでしょう。「主よ、主よ、私たちはあなたの名で預言をし、あなたの名で悪霊を追い出し、あなたの名で多くの奇跡を行ったではありませんか。」²³そのとき、わたしは彼らに言う。「わたしはあなたがたを全然知らない。不法を行う者たちよ、わたしから離れ去れ。」(マタイ7:21-23)

使徒パウロは、当時「不法の秘密」が「すでに働いていた」(テサロニケ人への第二の手紙 2:7)と指摘しました。この不法は、聖書が終末の時に警告している「大いなるバビロンの秘密」(黙示録 17:3-5)とも関連しています。

「不法の奥義」は、神の十戒などを守る必要がない、あるいは十戒には許容される例外がたくさんある、あるいは神の律法を破っても許容される懺悔の形態があるなどと信じている自称クリスチャンと関係があります。そのため、彼らは神の律法の一形態を守っていると考えながらも、イエスや使徒たちが正当と認めるキリスト教の一形態を守っていないのです。

ギリシャ・ローマ人は、神の戒めを破りながらも、自分たちの伝統がそれを容認できると主張したパリサイ人のようなものです。イエスはそのようなやり方を非難されました(マタイ15:3-9)。イザヤもまた、神の民であると主張する人々が神の律法に背くであろうと警告しました(イザヤ30:9)。悲しいことに、この無法な反逆は今日でも見られるものです。

もう一つの「謎」は、ローマ教会が、その軍事的なエキュメニカルな諸宗教間の連携が平和と、地上における聖書に基づかない神の王国の実現につながると信じているように見えることである。聖書は、エキュメニカルな統一が数年間は成功するだろうと警告している(注:新エルサレム聖書カトリック教会が承認した翻訳である(以下に示す))

⁴彼らは、竜が自分の権威を獣に与えたので、竜の前にひれ伏し、獣の前にひれ伏して言った。「だれが、この獣と比べることができようか。だれが、これと戦うことができようか。」⁵獣は、傲慢したり冒涇したり、42か月間活動することを許されました。⁶そして神と、神の名と、神の天の幕屋と、そこに避難しているすべての人々に対して冒涇の言葉を口にした。⁷それは聖徒たちに対して戦争を起こし、彼らを征服することを許され、あらゆる人

種、民族、言語、国家に対する権力を与えられました。⁸そして、世のすべての人々、すなわち、世の初めから、いけにえの子羊の生命の書に名が記されていないすべての人々が、それを拝むことになるのです。⁹聞こえる者は聞きなさい。¹⁰捕囚に服する者は捕囚に服し、剣による死に服する者は剣による死に服する。だからこそ、聖徒たちは忍耐と信仰を持たなければならぬ。(黙示録 13:4-10、新改訳聖書)

聖書は終末期のバビロン統一に対して警告しています。

¹七つの鉢を持つ七人の天使の一人が私に話しかけて言った。「ここに来なさい。豊かな水のそばに座している大淫婦への罰を見せましょう。²地のすべての王は彼女と姦淫し、彼女は世界中のすべての民を彼女の姦淫の酒で酔わせた。」³彼は霊となって私を砂漠に連れて行き、そこで私は、七つの頭と十本の角を持ち、全身に冒瀆的な称号が書かれた緋色の獣に乗った女を見ました。⁴その女は紫と緋色の衣をまとい、金と宝石と真珠で輝き、売春で得た忌まわしい汚物で満たされた金の杯を持っていた。⁵彼女の額には謎めいた名前が書かれていた。「大いなるバビロン、地上のすべての娼婦とすべての汚れた行いの母」。⁶わたしは彼女が酔っているのを見た。聖徒たちの血とイエスの殉教者たちの血に酔っているのを見た。そして、彼女を見たとき、わたしは完全に惑わされた。(黙示録 17:1-6、新改訳聖書)

⁹「これは賢明さが必要だ。7つの頭は7つの丘である女性が座しているのは...」¹⁸あなたが見た女性は大都市地上のすべての支配者たちの上に権威を持つ者よ。』(黙示録 17:9,18、新改訳)

¹この後、私は、もうひとりの御使いが大いなる権威を与えられ、天から下って来るのを見た。地は彼の栄光で輝いた。²彼は大声で叫んだ。「バビロンは陥落した。大いなるバビロン墮落し、悪魔の巢窟となり、あらゆる汚れた霊や汚くて忌まわしい鳥の住み家となった。³すべての国々は彼女の淫行の酒を深く飲み、地のすべての王は彼女と淫行を行い、すべての商人は彼女の淫行によって富を得た。』⁴天から別の声が聞こえた。「我が民よ、彼女から離れ去れ。彼女と同じ罪を犯さず、同じ災い

を被らないようにするためだ。⁵彼女の罪は天にまで達しており、神は彼女の罪を心に留めている。彼女が他の人々に対して行ったのと同じように、彼女にも対処しなければならない。⁶彼女は要求した金額の二倍を支払わなければならない。彼女は自分で作った二倍の濃い酒を飲むことになる。⁷彼女の華やかな宴と乱痴気騒ぎのすべては、拷問と苦悶に匹敵する。「私は女王として即位した。私は未亡人ではないし、決して死別することはない」と彼女は思う。⁸そのために、一日のうちに災いが彼女に降りかかる。病気と悲しみと飢饉。彼女は焼き尽くされる。彼女を裁く主なる神は力強い。⁹「彼女と淫行を共にし、乱交を交わした地上の王たちは、彼女のために嘆き悲しむであろう。彼らは彼女が燃える煙を見るであろう。」(黙示録 18:1-9、新改訳)

ゼカリヤ書では、聖書はバビロンの到来を警告し、真の統一は後 イエスは再び来られる。

¹⁰気をつけろ！気をつけろ！北の国から逃げよ、と主は言われる。私はお前たちを天の四方に散らした、と主は言われる。¹¹気をつけろ！逃げろ！シオンは今、バビロンの娘とともに暮らしています。

¹²ヤハウエ・サバオトはこう言われる。栄光が命じたからである。

あなたたちを略奪した国々について、わたしにこう言っておられます。「あなたたちに触れる者は、わたしの目の玉に触れる者である。」¹³今、見よ、わたしは彼らの上に手を振り、彼らは奴隷にした者たちに略奪されるであろう。その時、あなたたちは万軍の主がわたしを遣わしたことを知るであろう。¹⁴歌い、喜びなさい、シオンの娘よ。今、わたしはあなたたちの間で暮らすために来ている。ヤハウエは宣言する。¹⁵その日には、多くの国々が主に従い、主の民となり、あなたたちの間で暮らすようになる。その時、あなたたちは万軍の主が私をあなたたちのもとに遣わされたことを知るであろう。¹⁶ヤハウエは聖地における彼の領地であるユダを占領し、再びエルサレムをその選択とされる。(ゼカリヤ書 2:10-16、新改訳聖書。欽定訳聖書/新改訳聖書では、この節はゼカリヤ書 2:6-12として記載されている。)

国連、バチカン、多くのプロテスタント、そして東方正教会の指導者たちが推進しているエキュメニカル運動や諸宗教間の運動は、聖書によって明確に非難されており、奨励されるべきではない。イエスは、主張する「多くの人を惑わす」(マタイ24:4-5)方に従うこと。エキュメニズムの多くは、黙示録6:1-2の第一の封印が開かれることと関連している。これは、黙示録の「白い騎士」(イエスではない)や黙示録17章の娼婦としても知られている。

ゼカリヤと同様に、使徒パウロも、真の信仰の一致は後イエスは再び来られる。

¹³ 私たち皆が神の御子に対する信仰と知識において一つとなり、キリストご自身の豊かさをもって完全に成熟した完全な人間となるまで。(エペソ人への手紙 4:13、新改訳)

この一致がイエスの再臨に先立って起こると信じている人たちは誤りです。実際には、イエスが再臨される時、イエスはご自身に敵対する諸国の一致を破壊しなければなりません。

¹¹時¹⁵分 それから、第七の天使がラッパを吹き鳴らした。すると、天に叫ぶ声が聞こえた。「この世の王国は、われらの主とそのキリストの王国となった。主は永遠に支配されるであろう。」¹⁶神の御前に座した24人の長老たちは、神を礼拝するためにひれ伏し、額を地面につけた。¹⁷これらの言葉で、「全能の主なる神よ、今おられ、かつておられたあなたに感謝します。あなたの偉大な力をお受けになり、あなたの統治を始めてくださったことに感謝します。」¹⁸諸国民は騒ぎ立てましたが、今やあなたの報いを受ける時が来ました。死者が裁かれ、あなたのしもべである預言者たち、聖徒たち、そしてあなたの御名を畏れる者たち、小さい者も大きい者も、報いを受ける時が来ました。地を滅ぼす者たちを滅ぼす時が来たのです。」「(黙示録 11:15-18、新改訳聖書)

^{19:6} そして私は、海の音か、あるいは大きな雷鳴のような、大群衆の声が答えるのを聞いた。「ハレルヤ！全能の神、主の統治が始まった。」¹⁹それから私は、獣が地上のすべての王たちとその軍隊と共に、騎手とその軍隊と戦うために集まっているのを見た。²⁰しかし、獣は捕らえられ、獣のために奇跡を行い、それ

によって獣の刻印を受け入れた人々と獣の像を拝んだ人々を欺いた偽預言者も捕らえられました。この二人は生きたまま、燃え盛る硫黄の湖に投げ込まれました。²¹残りの者はすべて、騎士の口から出た剣によって殺され、すべての鳥は彼らの肉を腹いっぱい食べた。^{20:4}それから私は、人々が座る玉座を見た。そこには裁きを行う力が与えられていた。私は、イエスの証しをし、神の言葉を宣べ伝えたために斬首されたすべての人々の魂、そして獣やその像を拝むことを拒み、額や手に焼き印を受けようとしなかった人々の魂を見た。彼らは生き返り、キリストと共に千年の間、支配した。(黙示録 19:6,19-21; 20:4、新改訳聖書)

イエスは、ご自身に敵対して結束した世界の軍隊を滅ぼさなければならぬことに注目してください。そして、イエスと最初の復活した聖徒たちが統治します。その時こそ、信仰の真の一致がもたらされる時です。悲しいことに、使徒パウロが警告したように(コリント人への手紙二 11:14-15)、多くの人が、一見善良そうに見えるが実際にはそうではない偽りの牧師に耳を傾けるでしょう。もしより多くの人々が聖書と神の国の福音を真に理解するなら、イエスの再臨の際に敵対する者は少なくなるでしょう。

7. なぜ神の王国なのか?

人間は自分たちがとても賢いと思いますが、私たちの理解には限界があります。しかし、神の「理解は無限です」(詩篇 147:5)。

だからこそ、この惑星を修復するには神の介入が必要なのです。

多くの人が信じているがで神よ、大多数の人間は神の言う通りに生きようとはしません。彼真に導くものです。次の点に注意してください。

⁸人よ、何が善であるかを主はあなたに示された。主があなたに求めるのは、ただ正義を行い、慈しみを愛し、謙遜に神とともに歩むことだけではないのか。(ミカ書 6:8)

謙虚に歩むと人類は神に仕えることを心から望んできたわけではありません。アダムとエバの時代(創世記3:1-6)以来、人間は神の戒め(出エジプト記20:3-17)を無視し、自分自身と自分の優先事項に頼ることを選んできました。

箴言は次のように教えています。

⁵心を尽くして主に信頼せよ、自分の理解に頼ってはならない。⁶あなたの行く道すべてにおいて、主を認めよ。そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされるであろう。⁷自分の目に賢者と映ってはならない。主を畏れ、悪から離れよ。(箴言 3:5-7)

しかし、ほとんどの人は心から神を信頼せず、神が自分の歩みを導いてくださるのを待ちません。多くの人が神の御心を行うと言いながら、実際には行いません。人類はサタンに欺かれ(黙示録12:9)、世の欲望と「いのちの誇り」(ヨハネ第一 2:16)に陥っています。

そのため、多くの人が自分たちが一番よく知っていると思い込み、独自の宗教的伝統や世俗的な政府を作り上げてきました。しかし、彼らはそうではありません(エレミヤ書 10:23参照)。そして、ほとんどの人は真に悔い改めるつもりもありません。

だからこそ人類は神の王国を必要とするのです(マタイ伝24:21-22参照)。

祝福について考えてみましょう

イエスが語った最もよく知られた一連の言葉の一つは、彼が語った祝福の言葉である。山上の垂訓オリーブの。

イエスが言われた言葉のいくつかに注目してください。

³「心の貧しい人たちは幸いです、天国は彼らのものだからです。」⁴悲しむ人たちは幸いです、彼らは慰められるであろう。⁵柔和な人たちは幸いです、彼らは地を受け継ぐであろう。⁶義

に飢え渴く人々は幸いである、彼らは満たされるであろう。⁷慈悲深い人たちは祝福されている、彼らは慈悲を得るであろう。⁸心の清い人たちは幸いである、彼らは神を見るであろう。⁹平和を実現する人たちは幸いである、彼らは神の子と呼ばれるであろう。¹⁰義のために迫害される人たちは幸いです。天の国はその人たちのものだからです。(マタイ5:3-10)

これらの祝福された約束は、神の国(マルコ4:30-31参照)において、マタイがしばしば天の国と呼んでいる場所(マタイ13:31参照)において成就します。柔和な者が地を受け継ぎ、清い者が神を見るという約束は、神の国において成就します。神の国における祝福の良い知らせを待ち望んでください。

神の道は正しい

真実は、神は愛であり(ヨハネ第一 4:8,16)、利己的ではないということです。神の律法は、神への愛と隣人への愛を示しています(マルコ 12:29-31; ヤコブ 2:8-11)。世の道は利己的で、死に至ります(ローマ 8:6)。

聖書には、真のクリスチャンは戒律を守っていると記されていることに注目してください。

¹イエスがキリストであると信じる者は、神から生まれた者です。そして、生みの親を愛する者は、神から生まれた者も愛するのです。²わたしたちが神を愛し、神の戒めを守るとき、わたしたちは神の子供たちを愛していることが分かります。³神の愛とは、神の戒めを守ることです。そして神の戒めを守るのです。

重荷ではありません。(ヨハネ第一 5:1-3)

神の「戒めはすべて義である」(詩篇 119:172)。神の道は清い(テトスへの第一の手紙 1:15)。悲しいことに、多くの人が様々な形の「不法」を受け入れ、イエスが律法や預言者を破壊するために来たのではなく、それらを成就するために来られた(マタイによる福音書 5:17)ことを理解していません。成就とは、それらの真の意味を説明し、多くの人が考えていた以上に広げることです(例: マタイによる福音書 5:21-28)。イエスは「律法や預言者を行ない、また教える人は、天の御国で大きいなる

者と呼ばれるであろう」(マタイによる福音書 5:19)と教えました(「神の御国」と「天の御国」という用語は同じ意味で使われます)。

聖書は、行いを伴わない信仰は死んだものであると教えています(ヤコブの手紙 2:17)。多くの人はイエスに従うと主張しますが、真にイエスの教えを信じず(マタイの福音書 7:21-23)、イエスに倣うべき姿(コリントの信徒への手紙一 11:1参照)をとろうとしません。「罪とは律法に違反することです」(ヨハネの手紙一 3:4、欽定訳聖書)であり、すべての人が罪を犯しています(ローマの信徒への手紙 3:23)。しかし、聖書は、神がすべての人のために計画を持っておられるので(ルカの福音書 3:6参照)、憐れみが裁きに勝利することを示しています(ヤコブの手紙 2:13)。

神の道から離れた人間の解決策は機能しません。千年王国では、イエスは「鉄の杖」(黙示録19:15)をもって支配し、人々が神の道に従って生きること善が勝利します。この世のすべての問題は、この世の社会が神とその律法に従うことを拒否しているから存在するので歴史は人類が社会の問題を解決する能力がないことを示しています。

⁶肉の思いは死であり、霊の思いは命と平安です。⁷肉の思いは神に敵対するものであり、神の律法に従わず、また従うこともできないからです。⁸ですから、肉に生きる者は神を喜ばせることができません。(ローマ人への手紙 8:6-8)

クリスチャンは霊的なことに焦点を当てるべきであり、悔い改めと洗礼を受けた後、私たちの個人的な弱さにもかかわらず、この時代に神の霊が与えられます(ローマ8:9)。

²⁶兄弟たちよ。あなたがたの召しをよく考えなさい。肉に従って知恵のある者は多くなく、力ある者は多くなく、身分の高い者は多くない。²⁷しかし神は、知者をはずかしめるために、この世の愚かな者を選び、強い者をはずかしめるために、この世の弱い者を選ばれたのです。²⁸神はこの世の卑しいもの、軽蔑されるもの、また無に等しいものを選び、有るものを無に帰せしめられました。²⁹いかなる肉なる者も神の前で誇ることがないようにするためである。³⁰しかし、あなたがたは、神によってキリスト・イエスに結ばれています。キリストは、私たちにとって、神の知恵となり、義と聖化と贖いとなりました。³¹聖書に書いてあるとお

りです。「誇る者は主を誇れ。」(コリント人への第一の手紙 1:26-31)

クリスチャンは神の計画に栄光を帰すべきです！私たちは今、信仰によって歩んでいます(コリント人への手紙二 5:7)。そして、信仰をもって上を見上げ(コロサイ人への手紙 3:2)、(ヘブル人への手紙 11:6)歩んでいます。神の戒めを守ることによって祝福を受けるのです(黙示録 22:14)。

なぜ神の王国の福音なのでしょうか？

プロテスタントは、イエスを救世主として受け入れた時点で、神の国を求めたと考える傾向があります。ローマ・カトリック教会は、洗礼を受けた者は、たとえ幼児であっても、神の国である教会に入ったと信じている傾向があります。ローマ・カトリック教会と東方正教会は、聖礼典などを通して神の国を求めていると考える傾向があります。キリスト教徒は洗礼を受けるべきですが、ギリシャ・ローマ・プロテスタントは、人類の問題を解決するためにこの世に目を向ける傾向があります。彼らは地上的な視点を持つ傾向があります(ローマ人への手紙8章6-8節参照)。

神の国を第一に求めること(マタイ6:33)は、クリスチャンにとって生涯の目標です。解決策をこの世に求めるのではなく、神とその道に目を向ける目標です。神の国の福音は私たちの人生を変えます。

聖書には、キリスト教徒はイエスと共に統治すると書かれていますが、真のキリスト教徒は実際に都市を統治することになるということをご存知ですか？イエスはこう教えました。

¹²「ある貴族が王国を受けて帰るために遠い国へ出かけました。¹³そこで彼は十人の僕を呼び、彼らに十ミナを渡して言った、「わたしが帰るまで商売をしろ」。¹⁴しかし、住民たちは彼を憎み、使者を彼の後に送ってこう言った。「私たちはこの男に王位を継がせるつもりはありません。」

¹⁵「それで、彼は戻って来て、

王国の王となった彼は、金を与えた召使たちを自分のところに呼び寄せ、各人が商売でどれだけ儲けたかを知るように命じた。¹⁶すると最初の者が来て言いました。『ご主人様、あなたの

一ミナで十ミナを稼ぎました』。¹⁷そこで王は彼に言った。「よくやった、良い僕だ。あなたはわずかなことに忠実であったから、十の町を治める権限を与えよう。」¹⁸すると、次の者が来て言った。『ご主人様、あなたの一ミナで五ミナを稼ぎました』。¹⁹イエスは彼にも同じように言われた。「あなたもまた五つの町を治めなさい。」(ルカ19:12-19)

今持っているわずかなものに忠実でありなさい。クリスチャンは、真の王国で、真の都市を統治する機会を得るでしょう。イエスはまた、「わたしは報いを携えて、各人にその働きに応じて与える」(黙示録 22:12)と言われました。神は、真に神に応答する者(ヨハネ 6:44、黙示録 17:14)のために、計画(ヨブ記 14:15)と場所(ヨハネ 14:2)をお持ちです。神の王国は現実のものであり、あなたもその一員になれるのです！

2016年の初めに、このジャーナルは科学「群衆の力」と題された記事で、人工知能とクラウドソーシングは人類が直面する「厄介な問題」を解決できると示唆した。しかし、この記事は「厄介」とは何かを理解しておらず、ましてやそれをどのように解決するかについても理解していない。その後の人工知能プログラムの登場は、世界の諸問題を解決していないことは確かだ。

神の真の道に従わない限り、協力は21世紀においても失敗する運命にある。st大洪水の後、人類が協力して失敗したバベルの塔を建設したときと同じ世紀です(創世記 11:1-9)。

中東などの世界の問題は(一時的な利益が期待されるにもかかわらず、例えばダニエル書 9:27a、テサロニケ第一 5:3)、人間によって解決されることはありません。私たちに必要なのは神の王国の平和です(ローマ人への手紙 14:17)。

国際テロリズムの問題は、期待される利益にもかかわらず、国連で騙された者たちによって解決されることはない(エゼキエル書 21:12 参照)(黙示録 12:9 参照)—私たちに必要なのは、神の王国の喜びと慰めである。

環境問題は、世界の国々が地球の破壊に加担するため、国際協力では解決されませんが(黙示録 11:18)、神の王国によって解決されます。

性的不道德、中絶、人体の一部の売買の問題は、米国によって解決されるのではなく(黙示録 18:13 参照)、神の王国によって解決されます。

アメリカ、イギリス、そして他の多くの国々が抱える巨額の負債は、国際的な仲介によって解決されるのではなく、最終的には(ハバク書 2:6-8 に従って滅亡した後)神の王国によって解決されるでしょう。

無知と誤った教育は国連では解決できません。私たちに必要なのは神の王国です。宗教紛争は、聖書の真のイエスを離れて救済を認めるエキュメニカル・諸宗教運動によって真に解決されることはありません。罪こそがこの世の「問題」であり、そのためにはイエスの犠牲と神の王国への再臨が必要です。現代医学は人間の健康に関するすべての答えを持っているわけではありません。私たちに必要なのは神の王国です。

遺伝子組み換え生物によって飢餓の問題は解決されません。遺伝子組み換え生物は、潜在的な大規模な農作物の不作により世界各地を飢餓の危険にさらしています。私たちに必要なのは神の王国です。

アフリカ、アジア、その他の地域における深刻な貧困は、終末の「バビロン」(黙示録18:1-19参照)から一時的に恩恵を受けるものの、貧困問題の解決にはつながりません。私たちに神の国が必要です。イエスを離れても、人類がこの「今の邪悪な時代」にユートピアをもたらすことができるという考えは、偽りの福音です(ガラテヤ1:3-10)。私たちに神の国が必要です。

神の王国の千年王国は、地上に設立される文字通りの王国です。それは神の愛に満ちた律法と、愛に満ちた神を指導者とするものです。聖徒たちはキリストと共に千年間統治します(黙示録 5:10; 20:4-6)。この王国には、真に神の教会に属する人々が含まれますが、神の王国が教会(カトリック教会であろうとなかろうと)であるとは聖書のどこにも記されていません。ローマ教会は千年王国の教えに反対しており、終末が近づくにつれて、聖書の福音のメッセージにさらに強く反対するでしょう。これはおそらくメディアで大きく報道され、マタイによる福音書 24:14の成就につながるかもしれません。

神の王国の最終段階には、「天から神のもとから下って来る新しいエルサレム」(黙示録21:2)が含まれ、その増大には終わりがありません。もはや不義も、悲しみも、死もありません。

神の王国の福音を説き、理解することは聖書の重要なテーマです。旧約聖書の筆者たちはそれについて教えました。イエス、パウロ、ヨハネもそれについて教えました。新約聖書以外で現存する最古の「キリスト教」説教もそれについて教えました。2世紀初頭のキリスト教指導者、ポリュカルポスやメリトスもそれについて教えました。続く神の教会は今日、このテーマについて教えています。聖書の中でイエスが最初に説教したテーマは神の国であることを思い出してください(マルコ1:13)。また、復活後にも説教されました(使徒行伝1:3)。そして、キリスト教徒がまず求めるべきものでもあります(マタイ6:33)。

福音はイエスの生と死だけを語るものではありません。イエスとその弟子たちが説いた福音の重点は、来るべき神の王国でした。神の王国の福音には、キリストによる救いだけでなく、人間の統治の終焉を教える教えも含まれています(黙示録 11:15)。

覚えておってください。イエスは、御国の福音がすべての国々に証しとして宣べ伝えられるまで、終わりは来ないと教えられました(マタイ 24:14)。そして、その宣べ伝える業は今まさに行われています。あなたも、この最後の、終わりの時の働きを支援しませんか？

良いニュースは神の王国は人類が直面している問題の解決策であるしかし、ほとんどの人はそれを支持しようとも、聞き入れようとも、その真実を信じようとしません。神の王国は永遠です(マタイ6:13)が、「この世は過ぎ去ります」(コリント人への第一の手紙7:31)のです。

神の王国の真の福音を宣べ伝えることは、続く神の教会は真摯に取り組んでいます。聖書が教えるすべてのこと(マタイによる福音書 28:19-20)を教えることに努めています。神の国(マタイによる福音書 24:14)もその一つです。神の国を待ち望む間、私たちは神の道を学び、従い、真理を信じたいと願う人々を慰めなければなりません。

来たるべき神の王国の福音を宣べ伝えることを、あなたも支持すべきではないでしょうか？あなたは神の王国の福音を信じますか？

続く神の教会

米国事務所続く神の教会は次の場所にあります:1036 W. Grand Avenue、Grover Beach、California、93433 USA; ウェブサイト www.ccog.org。

続く神の教会 (CCOG) のウェブサイト

CCOG.アジアこのサイトはアジアに焦点を当てています。

CCOG.INこのサイトはインド系の人たちを対象としています。

CCOG.EUこのサイトはヨーロッパを対象としています。

CCOG.NZこのサイトはニュージーランドおよびイギリス系の人々を対象としています。

CCOG.ORGこれは、続く神の教会。世界中の人々に奉仕しています。記事、リンク、ビデオなどが掲載されています。

CCOGCANADA.CAこのサイトはカナダ在住者を対象としています。

CCOGAfrica.ORGこのサイトはアフリカの人を対象としています。

CDLIDD.ES神の教会の継続。これはスペイン語のウェブサイトです。続く神の教会。

PNIND.PH継続する神の教会。これはフィリピンのウェブサイトです。続く神の教会。英語とタガログ語で情報が 있습니다。

ニュースと歴史のウェブサイト

コグライターこのウェブサイトは主要な宣教ツールであり、ニュース、教義、歴史記事、ビデオ、預言の最新情報が掲載されています。

チャーチヒストリーブックこれは教会の歴史に関する記事や情報が掲載された覚えやすいウェブサイトです。

バイブルニュースプロフェシーネットこれはニュースや聖書話題を扱うオンラインラジオのウェブサイトです。

説教と説教集のための YouTube と BitChute ビデオチャンネル

聖書ニュース預言チャンネル。CCOG 説教ビデオ。

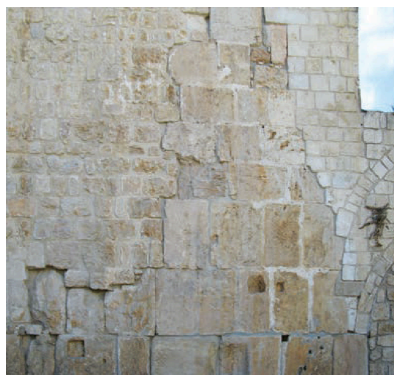
CCOGAアフリカチャンネル。アフリカの言語での CCOG メッセージ。

CCOGアニメーションキリスト教の信仰の側面を教えるチャンネル。

CCOGSermonesチャンネルにはスペイン語のメッセージがあります。

継続COGチャンネル。CCOG ビデオ説教。

下の写真は、エルサレムの建物の残っている数少ないレンガの一部（および後から追加されたもの）を示しています。この建物は、時にはセナクルとも呼ばれますが、エルサレムの西の丘（現在はシオン山と呼ばれています）にある神の教会と表現した方が適切です。



ここは、おそらく最も初期の真のキリスト教会があった場所だと考えられています。イエスの「神の国の福音」が説かれたであろう建物です。エルサレムにあったこの建物は、神の国の福音を教えた場所でした。

こういうわけで、私たちも絶えず神に感謝しています。兄弟たちよ、あなたがたはユダヤにいるキリスト・イエスに結ばれた神の諸教会の信徒となったのです。（テサロニケ第一 **2:13-14**）

聖徒たちに一度伝えられた信仰のために、熱心に戦いなさい。（ユダの手紙**3**章）

イエスは彼らに言われた。「わたしは他の町々にも神の国を宣べ伝えなければなりません。わたしはそのために遣わされたのです。」（ルカ**4:43**）

しかし、神の国を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられるのです。恐れることはありません、小さな群れよ。あなたがたに神の国を与えることは、あなたがたの父の御心なのです。（ルカ**12:31-32**）

そして、この御国の福音は、あらゆる民への証しとして、全世界に宣べ伝えられるでしょう。それから、終わりの時が来ます。（マタイ**24:14**）